

【1C1B101】教育原理		幼児教育学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	小椋 博文						
資格・制限等	幼児・保資必修						
資格等	保資必修、幼稚園二種、音療選択必修（幼教）、社会福祉主事（幼教）						
実務家教員	高等学校管理職・10年						
授業方法	講義を中心としますが、ペアワークやグループワークも取り入れながら進めます。知識を身に付けるだけでなく、教育や保育に対する自分の考え方の形成を目指して展開していきます。						
到達目標	知識・理解	教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的、制度的または経営的事項について理解することができる。					
	思考・判断・表現	教育について学んだ様々な内容について、自分の考えをまとめることができる。					
	技能	他者の意見に傾聴し理解するとともに、他者の意見も踏まえて自分の考えや意見を伝えることができる。					
	関心・意欲・態度	教育・保育に対して、関心・意欲を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。					
授業内容	教育という営みの基本原則などについて理解するとともに、今後学ぶ専門分野への道筋を明らかにすることを目的とし、教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性、教育の思想と歴史の変遷、教育の制度、教育の実践、生涯学習社会における教育の現状と課題等について理解することを目指します。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験		50	-	-	-	50
	課題提出		-	15	15	-	30
	受講態度		-	-	-	20	20
合計(点)		50	15	15	20	100	
評価の特記事項	評価の対象となるのは、定期試験、課題レポート（2回）、さらにワークシート及び授業への取組により受講態度を評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	ペアワーク、グループワーク						
課題に対するフィードバック	ワークシート（ファイル）は評価後返却します。						
テキスト	『【シリーズ知のゆりかご】 いまがわかる教育原理』西本 望 編 みらい(2,310円) ISBN:978-4-86015-450-9						
参考書・教材	『幼稚園教育要領』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他、『保育所保育指針』厚生労働省、いずれも平成29年。『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	教育の意義 [課題（予習）] 第1章(P14～P25)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
2	教育の目的 [課題（予習）] 第2章(P26～P37)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
3	教育と児童福祉のつながり [課題（予習）] 第3章(P38～P47)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
4	人間形成と家庭・地域・社会 [課題（予習）] 第4章(P48～P59)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
5	近代教育成立の歴史とさまざまな国の教育思想家たち [課題（予習）] 第5章(P60～P65)、第6章(P72～P83)、第8章(P100～P113)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
6	日本の教育思想と歴史 [課題（予習）] 第7章(P84～P99)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
7	教育制度の基礎 [課題（予習）] 第5章(P65～P68)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
8	諸外国の教育制度 [課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
9	教育の方法 [課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
10	教育の内容／保育・教育実践の基礎理論 [課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
11	教育実践の多様な取り組み [課題（予習）] 第12章(P160～P175)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
12	教育実践の多様な取り組み [課題（復習）] 最も興味を持った教育実践についてレポートを作成する。(2～4h)						
13	生涯学習社会と教育 [課題（予習）] 第13章(P176～P189)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
14	生涯学習社会と教育 [課題（復習）] 『生涯学習の課題と施策』で学んだ中で最も興味を持った課題についてレポートを作成する。(2～4h)						
15	定期試験						

時間外での学修	講義の内容理解を深めるために、予習としてテキストを読んでください。また、授業で使用したワークシートを使って復習をしてください。また、レポート作成の際には、図書館の書籍やインターネット等を活用して情報収集してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	質問等のある人は、オフィスアワーとして授業後A304(A号館3F)で受け付けますので気軽に訪ねてください。

【1C1S102】教職論		幼児教育学科		1年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	市橋 信子						
資格・制限等	幼児・保育必修						
資格等	保育必修、幼稚園二種						
実務家教員	高等学校・特別支援学校 管理職11年						
授業方法	講義を中心に課題解決学習等を取り入れながら、グループワークや個別発表活動を行います。知識の理解だけでなく、保育職について自ら考え、表現する力の形成を目指して展開していく予定です。						
到達目標	知識・理解	保育職に必要な役割や倫理、保育士の位置づけや専門性、保育者のキャリア形成、保育者や専門機関との連携と協働等についての基礎的な知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	保育職の適性について考え、指導や支援にあたって求められる基本的な思考や判断の内容がわかり、それらを適切に表現することができる。					
	技能	保育職に必要な基礎的な技能を理解して身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	保育職に興味や関心をもって学ぶ意欲を高め、学習内容を積極的に身に付けようと努力して学修に取り組むことができる。					
	備考	・○・ の記号は幼児教育学科のDP及び到達指標との関連を示します。					
授業内容	子どもを保育することでその生涯に大きな影響を与える重要な仕事である保育職について、現場のしくみや具体的な事象、保護者や地域等との連携の実態などの様々な面から学び、保育士の役割や制度的位置付け、専門性、キャリア形成等について考えることで、その職務内容に関する理解を深めていきます。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		45	15	-	-	60
	課題・レポート・発表		-	10	10	10	30
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		45	25	10	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取り組み状況、課題の提出状況等から総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。						
ICT活用							
アクティブラーニングの活用	グループワーク、調査、発表						
課題に対するフィードバック	提出課題は内容、表現方法、完成度等を評価してフィードバックします。						
テキスト	『保育者論(新基本保育シリーズ7)』監修 公益財団法人 児童育成協会 編集 矢藤誠慈郎 天野 珠路 中央法規出版(2,200円) ISBN:978-4-8058-5787-8						
参考書・教材	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年告示 文部科学省)、「保育所保育指針」(平成29年告示 厚生労働省)、「幼稚園教育要領解説」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府他、「保育所保育指針解説」(平成30年 厚生労働省)						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	保育者の役割・職務内容 保育所保育士および幼稚園教諭の役割と職務内容について、保育所保育指針および幼稚園教育要領から学ぶ。遊び場面での事例をもとにして、子どもの心身の発達をうながす保育や保育者の役割について考える。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)						
2	保育者の倫理 専門的倫理の概念と必要性、法律との違いについて概観し、全国保育士会倫理綱領などをもとに保育者に必要な専門的倫理の内容を学ぶ。保育実践において生じる倫理的ジレンマの事例から解消方法について考える。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)						
3	保育者の資格と責務 保育士の法的・制度的特質を学びながら、その資格の在り方や責務について理解し、専門職性について考える。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)						
4	保育者の資質・能力 保育者自身および保育の対象やチームワーク・協働性に求められる要素について学ぶとともに、自分自身の資質や能力への気づきとそれらを身に付ける方法について考える。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)						
5	養護および教育の一体的展開 保育所保育および幼稚園での養護と教育の具体的な内容と実践について学ぶ。養護と教育が一体となった保育実践について事例をもとに考える。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)						
6	家庭との連携と保護者に対する支援 家庭との連携と保護者に対する子育て支援との関係、保護者が置かれている社会的な現状を把握し、保育所等における子育て支援の基本、園の特性を活かした支援、地域や関係機関との連携について学ぶ。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)						
7	計画に基づく保育の実践と省察・評価 計画・実践・評価・改善を継続的に実施するPDCAサイクルの必要性を理解し、保育における具体的なPDCAの在り方について学ぶ。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)						
8	保育の質の向上 保育の質を向上させるための具体的な手立てと評価の在り方について、個と仲間の相互関係や個を見る視点、全体を把握する視点から具体的に学ぶ。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)						
9	保育における職員間の連携・協働 保育現場における保育力は、保育士の専門的知識・技術および保育士間の協働性や組織体制、連携に大きく関わっていることを理解し、保育における協働の広がりとその可能性について考える。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)						
10	専門職間および専門機関との連携・協働 保育現場における専門機関との連携や協働の実際から、子どもの健康と安全を保障し、健やかな育ちを支えていく重要性について理解し、その背景等について考察する。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	<p>地域社会との連携・協働 保育所が地域にひらかれた社会資源として地域のさまざまな人や場とつながり、連携を強めていくことの必要性を理解し、保育現場における地域社会との連携や協働がどのように実施されているか具体的に学ぶ。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)</p>
12	<p>関係機関等との連携 さまざまな子育て家庭のニーズに対応できる地域型保育事業の概要や連携、定義について学ぶ。保育の魅力と安全対策、遊びの特徴、保育所等との連携など家庭的保育の実際と今後について考える。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)</p>
13	<p>資質向上に関する組織的取組 保育所保育指針をふまえた資質向上に関する組織的取組の考え方について学ぶ。園内研修の実践例から研修を行う際の工夫や配慮について考える。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)</p>
14	<p>保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 保育所保育指針に示された専門性をふまえ、保育者の専門性の向上の道すじについて考え、保育者の発達段階モデルと発達をうながす要因について学習する。保育士のキャリアパスとキャリア形成の実際について学ぶ。 保育におけるリーダーシップ 個々の保育力を十分に出し合えるようなキャリアアップ研修、保育におけるリーダーシップの基盤と技法等について学び、保育の質を向上するマネジメントについて考える。 [課題(復習)]授業内容をまとめ、自分の考えを述べる。(4h)</p>
15	<p>まとめ 筆記試験を実施する。自己評価を行う。 [課題(復習)]授業を振り返り、保育職の専門性やキャリア形成について自己の考えをまとめる。(4h)</p>
時間外での学修	<p>[課題]は授業の到達目標達成に必要です。()の標準学修時間をめどに取り組みしましょう。提出や授業で活用し、評価に含まれます。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>保育士としての資質と能力を確実に身に付けることができるように積極的に学習に取り組んでください。オフィスアワーは、授業後に教室で行います。</p>

【1C1B103】社会福祉		幼児教育学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	川島 民子						
資格・制限等	保資必修						
資格等	保資必修、音療選択必修（幼教）、社会福祉主事（幼教）						
実務家教員	特別支援学校教員2.5年						
授業方法	講義、ビデオ視聴、授業のテーマに沿ったグループディスカッション等で進めていきます。活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体場でフィードバックを行います。						
到達目標	知識・理解	社会福祉の課題と施策について保育職として必要な基本的な知識をもち、理解できる。					
	思考・判断・表現	社会福祉の課題に対する対応について、得られた知識をもとに、保育職の立場で思考・判断・表現できる。					
	技能	社会福祉の現場で必要とされる専門的な技能を身につけることができる。					
	関心・意欲・態度	社会福祉の課題や対応について関心をもち積極的に学ぶことができる。					
授業内容	少子化、貧困が社会福祉の大きな課題です。どのような施策や制度、人材によって支えられているかを学ぶとともに、高齢者福祉、障がい者福祉についても学んでいきます。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	30	-	-	70
	レポート		-	10	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		40	40	5	15	100
評価の特記事項	講義が中心になりますが、筆記試験だけではなく、日頃の振り返りやレポートからも評価します。受講態度は、出席状況とともに学修への取組や提出物の状況などからも評価します。						
ICT活用	社会福祉に関する動画映像の視聴や、調べ学習を通して理解を深めます						
アクティブ・ラーニングの活用	テーマに関する内容について、調べ学習やグループ協議、発表を行うことによって主体的・対話的に学修に向かえるようにします。						
課題に対するフィードバック	授業後の振り返りから、個別に返答、または全体場でフィードバックを行います。						
テキスト							
参考書・教材	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、必要な資料はその都度配付します						
		内容					
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 講義で大事にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について						
2	社会福祉とわたしたち：わたしたちの生活に社会福祉がどのように関わっているか学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
3	社会福祉の歴史：日本の福祉についてこれまでの歩みについて学ぶ。 [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
4	社会福祉の現代的課題：現代の生活課題について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
5	社会福祉の行政機関：社会福祉の公的機関について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
6	社会福祉施設：社会福祉施設の種類や形態について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
7	社会福祉と社会保障の制度：社会保険、公的扶助、社会手当等について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
8	社会福祉の専門職：社会福祉専門職の専門性について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
9	子ども家庭福祉：子どもの人権や現代課題との関連について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
10	少子化と子育て支援：現代の生活課題に対する施策について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
11	高齢者福祉：高齢者福祉の仕組みについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
12	障害者福祉：障害者福祉の仕組みについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
13	相談援助：相談援助の意味と方法について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
14	利用者支援：権利擁護や苦情解決について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
15	社会福祉についてのまとめ：社会福祉に関する話題をもとに、保育者としての在り方について考える [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
時間外での学修	参考となる本や雑誌などを進んで読むようにしましょう。【この科目で求める望ましい授業書での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	社会福祉に関する基礎的な知識は保育職を目指すに当たって不可欠です。一緒に学び、考えていきましょう。オフィスアワー：研究室水曜日15：00～16：00						

【1C1B105】子ども家庭福祉		幼児教育学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	川島 民子					
資格・制限等	保資必修					
資格等	保資必修、音療選択必修（幼教）、社会福祉主事（幼教）					
実務家教員	特別支援学校教員2.5年					
授業方法	講義、ビデオ視聴、授業のテーマに沿ったグループディスカッション等で進めていきます。活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体場でフィードバックを行います。					
到達目標	知識・理解	子ども家庭福祉の課題と施策について保育職として必要な基本的な知識をもち、理解できる。				
	思考・判断・表現	子ども家庭福祉の課題に対する対応について、得られた知識をもとに、保育職の立場で思考・判断・表現できる。				
	技能	子ども家庭福祉の現場で必要とされる専門的な技能を身につけることができる。				
	関心・意欲・態度	子ども家庭福祉の課題や対応について関心をもち積極的に学ぶことができる。				
授業内容	少子化が子ども福祉の大きな課題です。どのような施策や制度、人材によって支えられているかを学ぶとともに、貧困や虐待、障がい者福祉等についても学んでいきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	40	30	-	-	70
	レポート	-	10	5	-	15
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計(点)	40	40	5	15	100
評価の特記事項	講義が中心になりますが、筆記試験だけではなく、日頃の振り返りやレポートからも評価します。受講態度は、出席状況とともに学修への取組や提出物の状況などからも評価します。					
ICT活用	子ども家庭福祉に関する動画映像の視聴や、調べ学習を通して理解を深めます。					
アクティブ・ラーニングの活用	テーマに関する内容について、調べ学習やグループ協議、発表を行うことによって主体的・対話的に学修に向かえるようにします。					
課題に対するフィードバック	授業後の振り返りから、個別に返答、または全体場でフィードバックを行います。					
テキスト						
参考書・教材	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、必要な資料はその都度配付します					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション 講義で大事にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について					
2	子ども家庭福祉とは：理念や概念、関連法律、人生とのかかわりについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)					
3	子ども家庭福祉を取り巻く社会：少子化の現状と原因・背景について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)					
4	子どもの権利：子どもの人権の考え方や子どもの権利ノートについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)					
5	子どもを守る法律：児童福祉法など子ども家庭福祉に関わる法律について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)					
6	子ども家庭福祉分野で働く専門職：専門職の役割と実際について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)					
7	子ども家庭福祉を実施する機関(1)：児童福祉施設の役割と実際について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)					
8	子ども家庭福祉を実施する機関(2)：児童相談所の役割と実際について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)					
9	少子化と子育て支援サービス(1)：母子保健サービスについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)					
10	少子化と子育て支援サービス(2)：ひとり親家庭の福祉サービスについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる					
11	少子化と子育て支援サービス(3)：子ども家庭に関する各種手当について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる					
12	子ども家庭福祉の諸問題(1)：子どもの貧困と対策について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる					
13	子ども家庭福祉の諸問題(2)：児童虐待と対策について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる					
14	子ども家庭福祉の諸問題(3)：障害児の福祉について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる					
15	子ども家庭福祉についてのまとめ：子ども家庭福祉に関する話題をもとに、保育者としての在り方について考える [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる					
時間外での学修	参考となる本や雑誌などを進んで読むようにしましょう。【この科目で求める望ましい授業害での総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	子ども家庭福祉に関する基礎的な知識は保育職を目指すに当たって不可欠です。一緒に学び、考えていきましょう。オフィスアワー：研究室水曜日15:00~16:00					

【1C1B106】保育原理		幼児教育学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	名和 孝浩						
資格・制限等	保資必修						
資格等	保資必修、社会福祉主事（幼教）						
実務家教員							
授業方法	講義形式で保育の本質に関して学びを深める。ICTを活用したコメントの共有により、自分の意見を深めつつ、他者の様々な視点から学びを深める。						
到達目標	知識・理解	保育の意義とその内容についての基礎理論を理解する。					
	思考・判断・表現	保育所保育指針などのガイドラインを基盤として思考・判断できる。					
	技能	一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成ができる。					
	関心・意欲・態度	保育者として社会に貢献する意識を育てることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	国が「保育」や「保育所」をどのように定め、何を求めているのかを学び、保育者が自信をもって実践に取り組みするため、子どもの権利を明らかにして保育の本質を学ぶ。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		25	15	10	-	50
	レポート課題等		-	15	15	15	45
	ミニテスト		5	-	-	-	5
	合計(点)		30	30	25	15	100
評価の特記事項	レポートは毎回の小レポートを含める。受講態度は、学修への取組状況、グループワークの参加度、発表や提出物の状況などから総合的に評価します。						
ICT活用	毎時間の授業コメントや授業内での課題をインターネット上で集約し共有する。						
アクティブ・ラーニングの活用	演習等を通して、互いの意見を交流させることで、自分自身の子ども理解を深め保育観を養う。						
課題に対するフィードバック	毎時間授業コメントの共有や助言、質疑応答などを行うことでフィードバックする。						
テキスト							
参考書・教材	『保育所保育指針解説書（厚生労働省版）』フレーベル館 『教育要領と保育指針 幼稚園教育要領解説（文部科学省版）』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府版）』フレーベル館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 保育所の法的位置づけと施設の理解 [課題（予習）]なぜ保育原理を学ぶのかを考える（2～4h）						
2	保育所保育指針を基盤とした保育の理念と意義 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育所保育指針を読み込む（2～4h）						
3	保育所保育指針の改訂を基盤としたねらい・内容 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育所保育指針を読み込む（2～4h）						
4	保育・子育て支援制度から見た保育の現状と課題 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]子ども・子育て支援新制度について調べる（2～4h）						
5	保育の基盤としての子ども観 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育現場での実践事例について調べる（2～4h）						
6	子ども理解と保育者に求められる専門性 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育現場での実践事例について調べる（2～4h）						
7	子どもが育つ環境の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育現場での環境構成について調べる（2～4h）						
8	保育者の言葉かけから見る保育の実践 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]「叱る」と「怒る」の違いについて調べる（2～4h）						
9	子どものいざこざから見る保育内容の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]子どものいざこざと発達について調べる（2～4h）						
10	園での生活の流れから見る保育内容の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育所における1日の流れについて調べる（2～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	保育の計画と実践の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(予習)] 保育課程とねらい・内容について調べてまとめる(2~4h)
12	保育の思想と歴史の変遷 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(予習)] 日本や諸外国の保育思想家や歴史の変遷について調べる(2~4h)
13	保育者が語る現場の保育 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(予習)] 自分が目指す保育者像について考える(2~4h)
14	DVD視聴による保育実践の理解 [課題(予習)] 認定こども園について配慮すべき事項についてまとめる(2~4h)
15	総括 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(予習)] これまでのレジメや授業内容をまとめる(2~4h)
時間外での学修	保育を取り巻く制度や政治、時事問題などに関心を持ち、情報や資料を収集する。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	子ども・保育をめぐる諸問題を扱うため、日頃から最新の情報をキャッチできるよう意識をしておいてください。「子どもについて知りたい」「子どものよりよい環境をつくりたい」「保育の歴史について知りたい」など、自分なりの興味・関心を深めていきましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー(H211、水曜日昼休み)を活用してください。

【1C2B101】発達心理学		幼児教育学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	茂木 七香						
資格・制限等	幼児・保資必修						
資格等	保資必修、幼稚園二種、音療選択必修（幼教）、准学校心理士						
実務家教員	病院臨床心理士6年、学生相談室臨床心理士11年						
授業方法	基本的には講義形式で進めます。授業の内容に応じて、課題に取り組む、自分自身について振り返って記述する、グループワークに参加するなど、能動的な学び（アクティブラーニング）を前提とした方法も取り入れます。						
到達目標	知識・理解	全ての年齢の人を「対象」として捉え、その人の背景にある発達段階や発達課題に関する基礎的な知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	目の前の対象の行為や表出を相手の発達段階や理解度を考慮して多角的に分析し、判断する視点を持つことができる。					
	技能	対象を理解し、現在の発達段階の特性に合ったコミュニケーションを行うための技能を身につける。					
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自らの学びを深め、自己理解や他者理解に努める。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	生まれてから現在まであなたの心と身体は様々な面で発達してきましたが、この後はどうなるのでしょうか？「発達」というと赤ちゃんから大人になるまでの期間がクローズアップされがちですが、その後も人は死ぬまで発達します。この授業では人を「生涯発達心理学」の視点で捉え、各発達段階の特徴や個体としての変化、他者や社会との関わりなどを心理面を中心に学びます。今まで過ごしてきた発達段階（胎児期～青年期）については自分自身を振り返りながら、そしてこの後のまだ経験していない発達段階（成人期～老年期）から人生の終わりまでについては身近な人を手掛かりにしながら人の発達を概観します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	授業時間内課題		15	10	-	5	30
	授業時間外課題		10	10	-	10	30
	ミニレポート		-	-	5	-	5
	最終レポート		5	5	10	-	20
	受講態度		-	-	-	15	15
合計(点)		30	25	15	30	100	
評価の特記事項	授業時間内課題：授業中に記入し提出するワークシートやミニツッパーパー 授業時間外課題：時間外に取り組む次回授業で提出する課題 レポート：ルーブリック（評価基準）とともに課題内容を提示						
ICT活用	学修内容の理解度確認や受講生間の意見交流のためにクラウドサービスsli.doやGoogleフォームなどを使用します。						
アクティブラーニングの活用	sli.doによる発言、グループワーク、意見交流など。						
課題に対するフィードバック	ミニツッパーパー、課題やレポートへのコメントを返します。						
テキスト	『ガイドライン「生涯発達心理学」』二宮克美・大野裕明・宮沢秀次編 ナカニシヤ出版(2,000円) ISBN:978-4779506819						
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要項 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 補足資料を授業で配付します。その他、参考図書や関連動画などは授業中に適宜紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	はじめに（シラバス説明、文章の書き方、Slidoの使い方） 第1章 生涯発達心理学の基礎 [課題(復習)]教科書第1章（P1～P12）授業で指定する課題（2～4h）						
2	第2章 発達研究の方法 第3章 胎児期 [課題(復習)]教科書第2章（P13～P38）授業で指定する課題（2～4h）						
3	第3章 乳児期 その [課題(復習)]教科書第3章（P39～P48）ミニレポート課題（4～6h）						
4	小レポートを使った反転授業 [課題(復習)]ミニレポート課題の書き直し（2～4h）						
5	第3章 乳児期 その [課題(復習)]教科書第3章（P39～P48）授業で指定する課題（2～4h）						
6	第4章 幼児期 [課題(復習)]教科書第4章（P49～62）（2～4h）						
7	第5章 児童期(小学生の時期) [課題(復習)]教科書第5章（P63～P80）（2～4h）						
8	図書館活用授業 子どもの発達を絵本から学ぶ [課題(復習)]自分の選んだ絵本についてまとめる（2～4h）						
9	第6章 青年期前期(中学生の時期) [課題(復習)]教科書第6章（P81～P94）（2～4h）						
10	第7章 青年期中期(高校生の時期) [課題(復習)]教科書第7章（P95～P108）（2～4h）						
11	第8章 青年期後期(大学生・有職青年) [課題(復習)]教科書第8章（P109～P124）（2～4h）						
12	第9章 成人期前期(25才～45才) [課題(復習)]教科書第9章（P125～P142）（2～4h）						
13	第10章 成人期中期(中年期、45才～65才) [課題(復習)]教科書第10章（P143～P154）（2～4h）						
14	第11章 成人期後期(老年期、65才～) [課題(復習)]教科書第11章（P155～P170）（2～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	まとめ レポート作成の準備 レポート課題交流 【課題(復習)】最終レポートの作成(4~6h)
時間外での学修	毎回の授業時間外課題や小レポートにしっかり取り組んでください。次回授業で用いることもあります(反転授業)。日常生活では、あなたも周りの人もこれまでに様々な面で発達し今ここに居て、この瞬間にもまだ発達しているのだということ意識し、世の中を新たな視点で捉え直してみてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	発達心理学はあなたが今まさに生きている人生の過程についての学問です。当事者として楽しむ視点と学問として学ぶ視点の両方を持って受講すると、より深く学ぶことができます。 オフィスアワー：金曜日 12時10分～13時 (A306研究室)

【1C2B106】子どもの保健		幼児教育学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	遠渡 絹代・浅井 佳士					
資格・制限等	保資必修					
資格等	保資必修、音療必修（幼教）					
実務家教員	遠渡：病院看護師5年以上 浅井：病院看護師5年以上					
授業方法	テキストと配布資料等の教材を用いた講義を中心に進めていきます。					
到達目標	知識・理解	子どもの成長・発達、母子保健活動と施策、子どもの病気について、基本的な知識を理解できる				
	思考・判断・表現	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策の関連性を考え、子どもの健康を守るための取り組みと課題について考えを述べるができる				
	技能	関連する資料から子どもの保健に関する現状や課題について説明できる				
	関心・意欲・態度	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策について関心を持ち、積極的・主体的に学修に取り組むことができる				
	備考	○ の記号は、DP・到達目標と結びつきの強さを示しています。				
授業内容	子どもの保健は、子どもの心と体の健康について考え、子どもの健康を守り、健やかな育ちを支えることについて学科目です。取り巻く環境からの影響を受けながら成長する子どもたちの特徴を理解するとともに、子どもの身体的成長や機能的発達、母子保健活動と施策、子どもと病気について学びます。					
観点別評価	評価の方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	小テスト	65	25	-	-	90
	レポート	-	-	5	5	10
	合計(点)	65	25	5	5	100
評価の特記事項	教科書および講義内容を中心に知識の修得度の小テストまたはレポートで評価します。					
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	講義の中で双方向のディスカッションを行う。					
課題に対するフィードバック	小テストまたはレポートは、次回の授業でフィードバックします					
テキスト	『新基本保育シリーズ「子どもの保健」』松田博雄、金森三枝 中央法規(2,200円)					
参考書・教材	保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領 必要な資料は授業で配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1 浅井	ガイダンス、子どもの健康と保育（子どもとは、大人とは、養護と教育、保育における活動の場） [課題（予習）]テキスト第1講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
2 浅井	子どもの健康概念と健康指標 [課題（予習）]テキスト第2講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
3 浅井	子どもの健康と母子保健 [課題（予習）]テキスト第3講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
4 浅井	地域保健活動と児童虐待の防止 [課題（予習）]テキスト第4講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
5 浅井	子どもの成長と発達 [課題（予習）]テキスト第5講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
6 浅井	生理機能の発達と保健 [課題（予習）]テキスト第6講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
7 浅井	健康状態の観察、子どもによくみられる症状 [課題（予習）]テキスト第7講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
8 浅井	発育・発達 [課題（予習）]テキスト第8講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
9 浅井	子どもと病気（子どもの病気の理解、病気が子どもと家族に及ぼす影響） [課題（予習）]テキスト第9講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
10 遠渡	新生児の病気、先天性の病気の子どもの家族への対応 [課題（予習）]テキスト第10講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
11 遠渡	循環器、呼吸器、消化器系の疾患をもつ子どもと家族への対応 [課題（予習）]テキスト第11講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
12 遠渡	ネフローゼ症候群、糖尿病の子どもの家族への対応 [課題（予習）]テキスト第12講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
13 遠渡	脳性麻痺、てんかんの子どもと家族への対応 [課題（予習）]テキスト第13講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
14 遠渡	ウイルス感染症（麻疹、風疹、水痘、耳下腺炎）の子どもと家族への対応 [課題（予習）]テキスト第14講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
15 浅井	病気の予防と予防接種 [課題（予習）]テキスト第15講を通読する（1h）[課題（復習）]学びを振り返りまとめる（1h）					
時間外での学修	毎回の授業時間外課題にしっかりと取り組んでください。そして理解につなげましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	日頃から子どもに関するニュースや出来事に関心を持ち、日常生活で接する子どもの様子を意図的に観察して下さい。オフィスアワーは担当教員が授業で説明します。					

【1C3S202】保育内容「人間関係」の指導法		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	名和 孝浩						
資格・制限等	幼免・保資必修						
資格等	保資必修、幼稚園二種						
実務家教員							
授業方法	演習や指導計画に基づいた模擬保育・ロールプレイ等。						
到達目標	知識・理解	領域「人間関係」のねらい及び内容とその全体構造について理解する。					
	思考・判断・表現	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点について考えることができる。					
	技能	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた教材研究や保育構想を計画し、保育を改善する視点を身に付けている。					
	関心・意欲・態度	模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。					
授業内容	領域「人間関係」のねらい及び内容について、情報機器及び教材を活用しながら、子どもの姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、子どもの発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につける。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		15	20	15	-	50
	授業課題等		15	15	-	20	50
	合計(点)		30	35	15	20	100
評価の特記事項	ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	演習や模擬保育を通して互いの意見や保育方法に触れ、自分自身の保育観を養う。						
課題に対するフィードバック	各授業ごとの演習課題や時間外課題を中心に、Googleフォームで回答を集約し、フィードバックする。						
テキスト							
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	・オリエンテーション：領域「人間関係」とは [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
2	・幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「人間関係」の全体像をつかむ：これからの社会を生き抜く人を育てるために ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
3	・自立心を育む援助：情報機器及び教材を活用し、子どもの育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成を考える ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
4	・友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助のあり方：いざこざと保育者の援助 ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
5	・自他の気持ちの違いへ気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方：折り合いがつかない事例を考える ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
6	・きまりをめぐる様々な子どもの葛藤と援助：家庭生活・園生活・社会生活のきまりと子どもに経験させたい内容を考える ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
7	・ルールのある遊びと援助：葛藤しながら自分たちにとって意味のあるきまりをつくる ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
8	・個と集団の育ちを考える：子ども同士のかかわり合いを生かす間接的援助のあり方 ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
9	・協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育展開を考える：情報機器等を活用しながら保育展開の見通しや振り返りの工夫を意識して学ぶ ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
10	・子どもにとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える：協同的な活動の1ヶ月の展開を考える ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
11	・ICTの活用を踏まえた幼小の交流活動を考える：ICTの活用と協働学習により、相互主体的で互恵的な活動の工夫と展開 ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校以降の生活や学習で生かされる力：ICTの活用と協働学習により、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に幼小接続期を考える ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)
13	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中の幼稚園・保育所：ICTの活用と協働学習により、様々な人とのかかわりにある特徴を捉えて、乳幼児期に経験させたい地域の人とのかかわりを考える ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)
14	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人、多様な子どもとのかかわりの中で豊かに生きる子どもへ：ICTの活用と協働学習により、幼児の経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と保育者の援助を考える ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)
15	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題：まとめ ・課題の確認 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)
時間外での学修	<p>領域「人間関係」を取り巻く課題などに日頃から関心を持ち、情報や資料を収集する。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>「人間関係」を育む遊びや生活につながる保育実践力を養うこと。またグループワークや事例検討を通して、多角的に考察・分析する保育者としてのまなざしを育てましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー(H211、水曜日昼休み)を活用してください。</p>

【1C3S204】保育内容「言葉」の指導法		幼児教育学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	宮本 絢子					
資格・制限等	幼免・保資必修					
資格等	保資必修、幼稚園二種					
実務家教員	保育士10年					
授業方法	講義と演習					
到達目標	知識・理解	幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容を理解している				
	思考・判断・表現	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している				
	技能	領域「言葉」の特性および幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる				
	関心・意欲・態度	具体的な保育を想定した指導案の作成や、模擬保育の振り返りを通して保育を改善する視点を身につけることができる				
授業内容	幼稚園教育要領に示された領域の「言葉」のねらい及び内容について、乳幼児期の子どもの言葉が、日常生活の中での身近な人とのかわりを通して育つことを学びます。言葉の育ちにかかわる保育の様々な場面を示し、グループワークなどを行い、保育者の役割や援助を実践的に考察しながら、子どもの豊かな言葉を育むために保育者は、どのように保育内容を構想し、実践すべきかを探求します。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	期末定期試験	40	-	-	-	40
	レポート	-	30	-	-	30
	授業への姿勢	-	-	20	-	20
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	40	30	20	10	100	
評価の特記事項	ICT活用					
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク、模擬授業など					
課題に対するフィードバック	授業の最初に、前回のレポート（振り返りシート）をクラスで共有します。					
テキスト	『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』馬見塚昭久/小倉直子 ミネルヴァ書房(2,400円) ISBN:978-4-623-09251-2					
参考書・教材	「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」フレーベル館 「こどばと表現力を育む児童文化」萌文書林 その他授業中に紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業のオリエンテーション、進め方、評価の説明して授業の概要を知る。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、授業概要について理解を深める。(1h)					
2	保育における「言葉」とは? : 領域「言葉」のねらいと内容 [課題(復習)]今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
3	子どもの発達と言葉: 乳児の発達と言葉の獲得 [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、今日のキーワードをまとめる。(1h)					
4	子どもの発達と言葉: 幼児の発達と言葉の獲得 [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、今日のキーワードをまとめる。(1h)					
5	前言語期のコミュニケーション: コミュニケーションと愛着 [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、今日のキーワードをまとめる。(1h)					
6	話し言葉の機能と発達: 話す力を育てる保育者の援助について [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、今日のキーワードをまとめる。(1h)					
7	書き言葉の発達と保育: 書き言葉の発達を支える保育者の役割について [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
8	言葉に関して配慮を必要とする子どもへの支援: 事例をグループで検討する [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
9	子どもの言葉を豊かにする環境構成と援助: 事例をグループで検討する [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
10	子どもの言葉を豊かにする教材: 児童文化財の実際と保育の中での活かし方 [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。児童文化財について調べる。(1h)					
11	子どもの言葉を育む保育の実際: 模擬授業に向けての教材研究 [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。教材を準備する。(1h)					
12	子どもの言葉を育む保育の構想: 領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案の作成 [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
13	子どもの言葉を育む保育の実践: グループに分かれて模擬授業の実施 [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
14	子どもの言葉を育む保育の評価と改善: 模擬授業の振り返り [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
15	まとめ: 現代社会における課題と言葉を育てる保育者の役割 [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、全体のまとめをし、試験の準備をする。(1h)					
時間外での学修	日頃から、さまざまな児童文化財に興味、関心を持ちましょう。 【この科目に求める望ましい授業時間外での総学修時間: 15時間】					
受講学生へのメッセージ	子どもの発達と言葉を理解し、たくさんの児童文化財に触れることで、子どもたちと一緒に楽しめる心豊かな保育者に成長していけるようにしましょう。オフィスアワー: 授業内に指示します					

【1C3B108】乳児保育		幼児教育学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	宮本 絢子						
資格・制限等	保資必修						
資格等	保資必修						
実務家教員	保育士10年						
授業方法	講義が中心ですが、グループワークなども取り入れる予定です。						
到達目標	知識・理解	子どもの年齢による発達特性や成長のようす、育児で留意することについて理解する					
	思考・判断・表現	保護者とともに子育てしていく姿勢を持って、子どもの行為の意味に気づき、それらを分析・判断し実践に活かそうとすることができる					
	技能	子どもの成長発達に応じた生活の課題や遊びについて、保育技術を活用した指導や支援ができる					
	関心・意欲・態度	保育者として必要な専門的知識を活かしたコミュニケーション能力を身につける					
授業内容	人の一生の中で、著しい成長発達を遂げる乳幼児期は、人間として成長する基礎作りとして、とても大切な時期です。3歳未満児の発達について、月齢ごとの特徴を学び、保育者としてどのように接すればよいかを理解します。また、3歳未満児の保育内容と方法を理解して、保育に必要な知識や技術を身につけられるようにします。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	期末筆記試験		30	-	-	-	30
	レポート		-	30	-	-	30
	授業への姿勢		-	-	20	-	20
	受講の態度		-	-	-	20	20
		合計(点)	30	30	20	20	100
評価の特記事項	レポート(振り返りシート)は、毎時間の内容を振り返り、自分の考えや感想をまとめること。授業への姿勢は、乳児保育に興味関心を深く持ち、知識技術を習得しようと努力する姿を評価する。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク、グループディスカッションなど						
課題に対するフィードバック	授業の最初に、前回のレポート(振り返りシート)をクラスで共有します。						
テキスト	『よくわかる!保育士エクササイズ5 乳児保育演習ブック[第2版]』松本峰雄 監修 池田りな/才郷真弓/土屋由/堀科 ミネルヴァ書房(2,500円) ISBN:978-4-623-08642-9						
参考書・教材	「保育所保育指針」フレール館 「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレール館 その他授業中に紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業のオリエンテーション、進め方、評価の説明して授業の概要を知る。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、授業概要について理解を深める。(4h)						
2	乳児保育について:乳児保育の概念、乳児保育の意義について学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理して、理解を深め、身近なニュースに関心を持ったことをまとめる。(4h)						
3	乳児保育の歴史:乳児保育の変遷について学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理して理解を深め、家族の子ども時代の話を書きいてまとめる。(4h)						
4	乳児保育における保護者との関係について:子育てをする家庭の現状を知り、子育てに対する不安を理解し、保護者との関係づくりの大切さについて学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理する。子育てに関する記事やニュースに関心を持ち、まとめる。(4h)						
5	乳児期の発達の様子について:自分や親しい人などの母子手帳を見ながら、出生時や発育発達の様子を知り、気づいたことをまとめる。 [課題(復習)]今日の資料を整理する。記録した保護者の気持ちを想像したり、保護者から聞いたエピソードをまとめる。(4h)						
6	乳児と保育所の1日:乳児が保育所で過ごす1日の生活活動について [課題(復習)]今日の資料を整理して、乳児の保育園での生活スケジュールを確認する。(4h)						
7	乳児保育(3歳未満児保育)の保育内容について [課題(復習)]今日の資料を整理し、3歳未満児の保育内容についてまとめる。(4h)						
8	6か月未満の子どもの育ちと保育1:0~3か月、4~6か月未満の発達の様子と関わり方について [課題(復習)]今日の資料を整理し、0~3か月、4~6か月未満の乳児の姿をまとめる。(4h)						
9	6か月未満の子どもの育ちと保育2:0~3か月、4~6か月未満の生活と遊びの援助について [課題(復習)]今日の資料を整理し、0~3か月、4~6か月未満の乳児の生活と遊びについてまとめる。(4h)						
10	6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育1:6か月以上1歳未満の発達の様子と関わり方について [課題(復習)]今日の資料を整理し、6か月以上1歳未満の乳児の姿をまとめる。(4h)						
11	6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育2:6か月以上1歳未満の発達の生活と遊びの援助について [課題(復習)]今日の資料を整理し、6か月以上1歳未満の乳児の生活や遊びについてまとめる。(4h)						
12	1歳児の育ちと保育1:1歳以上2歳未満の発達の様子と関わり方について [課題(復習)]今日の資料を整理し、1歳以上2歳未満の乳児の姿をまとめる。(4h)						
13	1歳児の育ちと保育2:1歳以上2歳未満の生活と遊びの援助について [課題(復習)]今日の資料を整理し、1歳以上2歳未満の生活と遊びについてまとめる。(4h)						
14	2歳児の育ちと保育1:2歳以上3歳未満の発達の様子と関わり方について [課題(復習)]今日の資料を整理し、2歳以上3歳未満の乳児の姿をまとめる。(4h)						
15	2歳児の育ちと保育2:2歳以上3歳未満の生活と遊びの援助について [課題(復習)]今日の資料を整理し、2歳以上3歳未満の生活と遊びについてまとめる。(4h)						

時間外での学修	<p>保育者になることを意識して、日頃から保育に関する話題に関心を持ち、まとめておきましょう。また、自分自身の幼少期を振り返ったり、身近な方々に、出生時等のエピソードをきいておきましょう。「母子手帳」は必ず使いますので、手元に用意しておきましょう。</p> <p>【この科目に求める望ましい授業時間外での総学修時間：60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>乳児期の子どもの発達を理解し、保育を見通す力がつくようにしましょう。オフィスアワー：授業内に指示します</p>

【1C3S209】乳児保育		幼児教育学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	宮本 絢子					
資格・制限等	保資必修					
資格等	保資必修					
実務家教員	保育士10年					
授業方法	講義と演習。演習では、グループワークやグループディスカッション、発表を行います。					
到達目標	知識・理解	子どもの年齢による発達特性や成長のようす、育児で留意することについて理解する				
	思考・判断・表現	保護者とともに子育てしていく姿勢を持って、適切な保育や相談支援をすることができる				
	技能	子どもの成長発達に応じた生活の課題や遊びについて、保育技術を活用した指導や支援ができる				
	関心・意欲・態度	保育者として必要な専門的知識を活かしたコミュニケーション能力を身につける				
授業内容	人の一生の中で、著しい成長発達を遂げる乳幼児期は、人間として成長する基礎作りとして、とても大切な時期です。3歳未満児の発達について、月齢ごとの特徴を学び、保育者としてどのように接すればよいかを理解します。また、3歳未満児の保育内容と方法を理解して、保育に必要な知識や技術を身につけられるようにします。前期に学んだことを基礎として、さらに実践に役立つ演習を行います。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	期末筆記試験	30	-	-	-	30
	レポート	-	30	-	-	30
	授業への姿勢	-	-	20	-	20
	受講の態度	-	-	-	20	20
合計(点)	30	30	20	20	100	
評価の特記事項	レポート(振り返りシート)は、毎時間の内容を振り返り、自分の考えや感想をまとめること。授業への姿勢は、保育技術を習得に興味、関心を持ち、意欲的に努力すること。					
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク、グループディスカッション、発表など					
課題に対するフィードバック	授業の最初に、前回のレポート(振り返りシート)をクラスで共有します。					
テキスト	『よくわかる!保育士エクササイズ5 乳児保育演習ブック[第2版]』松本峰雄 監修 池田りな/才郷真弓/土屋由/堀科 ミネルヴァ書房(2,500円) ISBN:978-4-623-08642-9					
参考書・教材	「保育所保育指針」フレール館 「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレール館 その他授業中に紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業のオリエンテーション、進め方、評価の説明して授業の概要を知る。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、授業概要について理解を深める。(1h)					
2	乳児保育の環境:乳児の視点でとらえる環境の重要性を知り、基本的な環境や保育指針に示された環境について学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理して、乳児保育の環境の重要性についてまとめる。(1h)					
3	乳児のあそびと環境:あそびの重要性を知って、保育士の役割やかかわり方を考える。 [課題(復習)]今日の資料を整理して、乳児のあそびについてまとめる。(1h)					
4	乳児の集団保育と安全:乳児の集団での生活における配慮の大切さについて学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理して、乳児の集団生活における配慮についてまとめる。(1h)					
5	保育者の配慮と心構え:保育現場で保護者と接する心構えや職員間の連携について学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、(1h)					
6	保育の記録と計画(1):保育記録の意義や取り方について学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理する。観察と記録のポイントをまとめる。(1h)					
7	保育の記録と計画(2):保育計画の具体例をみながら計画の作成について理解する。 [課題(復習)]今日の資料を整理する。3歳未満児の保育計画の作成のポイントをまとめる。(1h)					
8	乳児の発達を考えたあそび:月齢、年齢別に遊びの特徴と内容を知り、遊びのレパートリーを増やしていく。 [課題(復習)]今日の資料を整理する。3歳未満児の保育計画の作成のポイントをまとめる。(1h)					
9	3歳未満児の発達に即した手作りおもちゃを考えよう:未満児向けのおもちゃを自分たちで作る計画を立てる。(図書館などを利用する) [課題(復習)]計画書を作成する。(1h)					
10	3歳未満児の発達に即した手作りおもちゃの作成しよう:手作りおもちゃを完成させ、次回、発表できるようにする。 [課題(復習)]手作りおもちゃの作成に必要なものを用意する。(1h)					
11	作成した手作りおもちゃを見せ合う:作成したおもちゃを発表し、評価し合う。 [課題(復習)]発表原稿を作成し、発表の練習をする。(1h)					
12	あそびと文化:絵本やわらべうたというあそび文化や伝承あそびについて学ぶ。 [課題(復習)]3歳未満児向けのあそび文化や伝承あそびについてまとめる。(1h)					
13	あそびと文化:3歳未満児向けの絵本やわらべうたについて紹介し合い、レパートリーを増やしていく。 [課題(復習)]3歳未満児向けの絵本やわらべうたについて、発表できるように自分のものにする。(1h)					
14	あそびと文化:3歳未満児向けの手作り絵本を考えて作ってみる。 [課題(復習)]絵本の題材を考えてくる。(1h)					
15	まとめ:乳児保育のこれから [課題(復習)]今までの配布資料をまとめて、全体の内容について振り返りをする。(1h)					

時間外での学修	保育者になることを意識して、日頃から赤ちゃんや3歳未満児の子どもや親子に関心を持って観察し、気づいたことを記録しておきましょう。 【この科目に求める望ましい授業時間外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	前期の学びを活かして、保育の実践力を身につけましょう。オフィスアワー：授業内に指示します

【1C3S210】子どもの健康と安全		幼児教育学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	浅井 佳士・遠渡 絹代						
資格・制限等	保資必修						
資格等	保資必修						
実務家教員	遠渡：病院看護師5年以上 浅井：病院看護師5年以上						
授業方法	テキストと配布資料等の教材を用いた講義を中心に進めていきます。						
到達目標	知識・理解	子どもの保健的観点を踏まえた保育環境について理解できる 子どもの主な疾患や症状について理解できる					
	思考・判断・表現	病気をもち子どもへの支援について考えることができる					
	技能	子どもの症状の観察について説明できる 子どもの健康や安全について説明できる					
	関心・意欲・態度	病気をもち子どもの健康的な生活や子どもを取り巻く多機関との連携に関心をもち、積極的・主体的に学修に取り組むことができる					
授業内容	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や子どもの健康について理解する。子どもの病気や起こりやすい事故の特徴を理解するとともに、保育者として子どもにとって安全な生活を送るための支援方法、子どもを取り巻く多機関との連携について学びます。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	小テスト		60	20	-	-	80
	レポート		-	5	5	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		60	25	5	10	100
評価の特記事項	教科書および講義内容を中心に知識の修得度の小テストまたはレポートで評価します。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	受講生の意見を求めながら双方で進めていきます。						
課題に対するフィードバック	小テストまたはレポートは、次回の授業でフィードバックします。						
テキスト	『『新基本保育シリーズ「子どもの健康と安全」』』松田博雄、金森三枝 中央法規(2,200円)						
参考書・教材	保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領 必要な資料は授業で配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス：授業の進め方 子どもの健康と保育の環境 [課題(予習)]テキスト第1講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
2	保育における子どもの健康管理と観察のポイント [課題(予習)]テキスト第2講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
3	子どもと職員の衛生管理 [課題(予習)]テキスト第3講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
4	保育所の事故防止と安全対策 [課題(予習)]テキスト第4講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
5	災害対策と危機管理 [課題(予習)]テキスト第5講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
6	子どものバイタルサインと全身状態の観察 [課題(予習)]テキスト第6講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
7	子どもの事故と対応 [課題(予習)]テキスト第7講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
8	感染症への予防と対応 [課題(予習)]テキスト第8講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
9	保育における保健的対応の基本的な考え方 [課題(予習)]テキスト第9講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
10	3歳未満児の特徴と適切な対応 [課題(予習)]テキスト第10講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
11	アレルギー疾患をもつ子どもへの対応 [課題(予習)]テキスト第11講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
12	障害のある子どもへの適切な対応 (重症心身障がい児・医療的ケア児) [課題(予習)]テキスト第12.15講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
13	障害のある子どもへの適切な対応 (発達障害児) [課題(予習)]テキスト第12.13講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
14	保育における保健計画および評価 [課題(予習)]テキスト第14講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
15	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携 [課題(予習)]テキスト第15講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
時間外での学修	毎回の授業時間外課題にしっかりと取り組んでください。そして理解につなげましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	健康に問題をもちながら生活している子どもにとって、子どもらしく成長発達していくためにどのような支援が必要なのか考えてみましょう。						

【1C3B211】障がい児保育		幼児教育学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	垣添 忠厚					
資格・制限等	保資必修					
資格等	保資必修					
実務家教員	特別支援学校教諭（18年）					
授業方法	講義・演習を通して障がいに対する理解が広がることを目指します。多様な障がいについて、個人ワークやグループワークなどから、その捉え方についての自ら考えを深めます。また、映像教材や絵本などを使って事例に触れながら実践的に学びます。					
到達目標	知識・理解	障がいについての基礎的な知識を理解し、人権意識を高める。				
	思考・判断・表現	障がい特性やその特性による行動への影響についてまとめたり、発表したりする事ができる。				
	技能	保育所等での障がいのある子どもへの具体的な対応について考えることができる。				
	関心・意欲・態度	積極的に課題に取り組み、資料を調べたり、考えをまとめたりする事ができる。				
授業内容	障がいの有無にかかわらず、あらゆる人がお互いに人格と構成を尊重し、支え合う共生社会の実現を目指すノーマライゼーションの理念のもと、保育所等で集団生活や活動に困っている子どもに着目し、なぜその子どもが困っているか、どう対応するとよいか考えます。また、その要因となる様々な障がいの特徴や特性を理解することで、インクルーシブな保育の推進について理解を深めます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	小テスト	10	10	10	-	30
	自己評価（毎時のレポート）	10	10	-	-	20
	課題提出（ワーク）	10	10	10	-	30
	受講態度	-	-	-	20	20
合計(点)	30	30	20	20	100	
評価の特記事項	小テストは、学修のまとめの確認として、第15週の授業内で実施します。毎回の授業の終わりに提示した自己評価の振り返りのレポートや、授業内での課題ワークを評価の対象とします。受講態度は、出席の状況、授業中の取り組む姿勢から評価します。					
ICT活用	障がい等の特徴が視覚的に分かりやすいように映像等を活用します。学生同士の意見が交流できるようにICT機器を活用します。					
アクティブ・ラーニングの活用	グループワークを通して、互いの考えを認め合いながら見聞を広げられるようにします。					
課題に対するフィードバック	毎回の授業のはじめに、前回のレポートから学生の率直な感想や意見、質問などをフィードバックし、他者の考えや感じ方を共感したり疑問に思っていたことを解決したりできる時間を設けます。					
テキスト	『特別支援 教育・保育概論 - 特別な配慮を要する子どもの理解と支援』尾野明美 小湊真衣 奥田倫子 萌文書林 ISBN:978-4-89347-320-2 C3037					
参考書・教材	保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領 授業時に必要なプリント等を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション（この講義で大切にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について） 障がい児保育を支える理念（1） ・「障がい」の捉え方や障がい児保育の歴史について学ぶ [課題(予習)] これまでに会った障がいのある人々についてまとめておく。(1-2h)					
2	障がい児保育を支える理念（2） ・障がいのある子どもの地域社会への参加・包摂（インクルージョン）の考え方を理解する ・障害児保育の基本について理解する [課題(予習)] 事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめ、また、わからない用語について調べておく。(1-2h)					
3	障がい児の理解と保育（1） ・視覚障がいの特徴と視覚障がい児についての理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1-2h)					
4	障がい児の理解と保育（2） ・聴覚障がいの特徴と聴覚障がい児についての理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1-2h)					
5	障がい児の理解と保育（3） ・肢体不自由の特徴と肢体不自由児についての理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1-2h)					
6	障がい児の理解と保育（4） ・知的障がいの特徴と知的障がい児についての理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1-2h)					
7	障がい児の理解と保育（5） ・重症心身障がいの特徴と重症心身障がい児についての理解 ・医療的ケアについての理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1-2h)					
8	障がい児の理解と保育（6） ・病弱、身体虚弱の特徴と病弱児についての理解 ・情緒障害、場面緘黙の特徴の理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1-2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
9	障がい児の理解と保育(7) ・発達障害についての理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
10	障がい児の理解と保育(8) ・発達障害(A S D:自閉スペクトラム症)の特徴とA S D児の理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
11	障がい児の理解と保育(9) ・発達障害(A D H D:注意欠如・多動性障害)の特徴とA D H D児の理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
12	障がい児の理解と保育(10) ・発達障害(S L D:限局性学習障害)の特徴とS L D児の理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
13	障がい児の理解と保育(11) ・ことばの発達に障がいのある子どもの理解 ・その他の発達障がい(感覚の過敏と鈍麻等)のある子どもの理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
14	保育所等における障がい児への対応の実際 ・障がいのある子どもの健康と安全 ・個別の指導計画の作成 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
15	保育所内外での連携 ・職員間の連携・協働 ・福祉制度の活用と専門機関との連携 まとめの小テスト ・これまでに学修した知識の定着の確認 [課題(復習)] この科目での学びを振り返り、各自の保育等の現場でどのように生かしていくかを考えレポートにまとめる。(1~2h)
時間外での学修	事前にテキストを読み、自分なりの考えをまとめておきましょう。また、参考となる本や雑誌など進んで読むようにしましょう。授業後は、保育の場で、子ども達とどのように関わることができるかをイメージしてみましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15~30時間】
受講学生へのメッセージ	障がいがあってもなくても子どもの育ちを促す保育士は、子どもたち一人ひとりを十分に理解することが求められます。障がいの特徴を学ぶことで、子どもたちの見方を広げ、子どもたちが楽しくのびのびと充実した生活を送ることができる保育をめざしましょう。オフィスアワーは、講義後の教室での10分間、または、毎週月曜日の研究室(H203)での12:15~12:45です。

【1C3B218】保育入門演習		幼児教育学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	大橋 淳子・名和 孝浩						
資格・制限等	特になし						
資格等	保資選択・選択必修						
実務家教員	大橋：幼稚園教諭・保育士28年						
授業方法	この授業は、1「手遊び」2「読み聞かせ」3「現場体験」の3つを体験します。「手遊び」は、様々な手遊びを楽しみ保育者と子ども役を交替しながら全員の前で演じる体験を積み重ねます。「読み聞かせ」は年齢や発達段階に合った絵本の選び方や読み方を学習し、グループごとにお話を組み立て発表します。「現場体験」は保育現場における子どもの生活を見学し、子どもの実態や遊びの様子を理解します。						
到達目標	知識・理解	幼児の実態を理解し、幼児になったつもりで手遊び・読み聞かせ等を仲間と共に楽しむことができる。					
	思考・判断・表現	豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者像を常に描き、研鑽に努めることができる。					
	技能	季節や年齢に応じた手遊び・読み聞かせ等を子ども達に楽しく伝える保育技術を身につけることができる。					
	関心・意欲・態度	グループ発表や表現活動を通して、コミュニケーション能力を身につけ、誰とでも柔軟に関わることができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	保育所・幼稚園の集団生活の実際を知り、生活では欠かせない「手遊び」「読み聞かせ」等の活用方法を体験を通して学びます。また、日常生活の中で、絵本の読み聞かせや手遊び自然な流れで演じる技術もマスターし、子どもの心をつかむことのできる保育者としての感性や資質の向上を図ります。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	演習・見学態度		-	-	-	30	30
	達成度		-	10	20	-	30
	発表・見学内容		10	10	10	-	30
	レポート		10	-	-	-	10
合計(点)			20	20	30	30	100
評価の特記事項	この科目は1手遊び、2読み聞かせ・すばなし、3現場体験を履修した上で合算し、単位数1単位の評価とします。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	前回の授業内容あるいは授業の最後に学んだことを確認し自己課題のまとめを作成します。						
課題に対するフィードバック	手遊びや読み聞かせの練習・発表に対しての評価や助言を行う。現場体験は各自の体験を振り返り、レポートに対する添削やコメントを行う。						
テキスト							
参考書・教材	必要に応じてプリントを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						

実施回	内容 授業内容・目標
1～15	<p>【オリエンテーション】第1週(1回)</p> <p>第1回 授業内容に関するガイダンスと各課題の説明 1: 手遊び ・手遊びの意義と効果について考える。 ・自己紹介と名前呼び遊び [準備・課題]手遊びの意義について記録にまとめる。(1h)</p> <p>2: 読み聞かせ ・子どもにとって絵本とは何かを考える。 ・子どもの頃に読んでもらった経験の中から読み聞かせのもつ意味を考える。 ・話し方や表情、演じ方のポイントを修得する。 [準備・課題]読み聞かせの中で育てたいもの別に分類しそれぞれ代表的な絵本を2冊ずつ選ぶ 好きな絵本を練習する。(1h)</p> <p>3: 現場体験 ・授業ガイダンス、現場見学の留意点・マナーについて確認 [準備・課題]現場見学の視点や特に知りたいことなどをまとめておく。(2h)</p> <p>【手遊び】(5回)</p> <p>第1回 0～2歳児の手遊びの学修 ・1対1の触れ合い遊びや古くから伝わる手遊びの技術を習得し、自分なりの演じ方を身につける。 ・[準備・課題]次回発表できるように、今日学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(1h)</p> <p>第2回 0～2歳児の手遊びの発表 ・1対1の触れ合い遊びや古くから伝わる手遊びの技術を習得し、自分なりの演じ方で発表する。 [準備・課題]発表した内容をまとめる。(1h)</p> <p>第3回 3～5歳児の手遊びの学修 ・以上児向けの手遊びのポイントをつかみ、手遊びの技術を習得し自分なりの演じ方を身につける。 ・[準備・課題]学習の成果を保育者になったつもりで個人発表できるように、今までに学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(1h)</p> <p>第4回 3～5歳児の手遊びの発表 ・以上児向けの手遊びの技術を習得し、自分なりの演じ方で発表する。 ・基本の手遊びを年齢に応じて発展させる。(個人発表) [準備・課題]学習の成果を保育者になったつもりで個人発表できるように、今までに学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(1h)</p> <p>第5回 手遊び発表のまとめ(グループ討議) ・発表した手遊びの内容についてまとめ、振り返る。 ・保育現場での活用方法やポイントを討議し、発表する。 [準備・課題]今までの発表内容をまとめておく。(1h)</p> <p>【読み聞かせ・すばなし】(5回)</p> <p>第1回 絵本の読み聞かせの学修 0～2歳児への読み聞かせと発展遊び ・1対1のふれあいを大切にしながら、自分のよさを生かした話し方や接し方を身につける。 ・[準備・課題]3～5歳児向けの絵本を2冊選び、読み聞かせの練習をする。(1h)</p> <p>第2回 読み聞かせの発表 3～5歳児への読み聞かせと発展遊び ・大勢の前での話し方や伝えたいこと、育てたいこと等のポイントを修得する。 [準備・課題]大型絵本・紙芝居を準備し発表ができるように効果的な構成や演じ方を練習する。(1h)</p> <p>第3回 大型絵本の読み聞かせ・紙芝居の学修 ・それぞれの読み聞かせのポイントを理解して、伝えたいことを明確にもちながら、効果的な構成や演じ方を練習する。(年齢に即した内容、語り方や演じ方、表情や発展遊びなど) [準備・課題]効果的な構成や演じ方をまとめる。(1h)</p> <p>第4回 すばなしの学修 ・すばなしの意義、心をつかむすばなしの実践のポイントを習得する。 (年齢に即した内容、語り方や演じ方、表情など) [準備・課題]年齢を設定し、すばなしの基礎を理解して効果的な話し方を練習する。(1h)</p> <p>第5回 すばなしの発表 ・3～5歳児への年齢に即した内容、ポイントを理解して実践をする。 (年齢に即した内容、語り方や演じ方、表情など) [課題]他者に伝わる発表方法の工夫をまとめ練習をする。(1h)</p> <p>【保育記録の作成】(3回)</p> <p>第1回 保育記録について学ぶ 保育記録とは何か、また記録の作成方法や意義について学ぶ [準備・課題]保育記録の作成方法についてまとめる(1h)</p> <p>第2回 保育記録の作成 保育記録の作成方法について学び、様式に沿って記録を作成する。 作成した記録を学生同士で相互チェックする。 [準備・課題]保育記録の作成(1h)</p> <p>第3回 保育記録の作成 保育場面のDVDを視聴し、様式に沿って観察記録を作成する。 [準備・課題]観察記録の作成(2h)</p> <p>【現場体験】(1回) *大垣市立北幼保園 大垣市立北幼保園の見学、観察 各自が体験した保育現場について気付いた点について話し合い発表する。 [準備・課題]観察記録の整理(2h)</p>
時間外での学修	見学で得た子どもの実態について振り返り、子どもの姿に応じた手遊びや読み聞かせなどが行えるようにしてください。毎回学習した手遊び、読み聞かせ等は、次回までに自分のものにし、人前で演じることができるよう、各自復習しておいてください。わからない時は、聞きにきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：20時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に参加し、子どもの実態の把握と、豊かな表情、自分なりの表現力を身につけてください。オフィスアワーは各教員の時間を確認してください。

【1C3S219】保育技術演習		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	大橋 淳子・立崎 博則・名和 孝浩						
資格・制限等	特になし						
資格等	保資選択・選択必修						
実務家教員	大橋：幼稚園教諭・保育士28年						
授業方法	この授業は、1、「スケッチブックシアター」、2、「パネルシアター」、の2つを、5コマずつ体験（計画・作成・演じ方）を行います。制作後、発表を通じて乳幼児に向けて演じる楽しさを味わい、保育教材の活用の仕方を学びます。						
到達目標	知識・理解	自分の作品や発表を振り返り、ねらいや課題を説明することができる。					
	思考・判断・表現	年齢や発達、ねらいに合わせた保育教材を制作し、教材活用をした表現を学ぶことができる。					
	技能	保育場面にふさわしい保育教材を発達やねらいにあわせて制作することができる。					
	関心・意欲・態度	意欲的に自分の保育技術の向上に努める。他者の発表から自分の良さと課題を振り返ることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	保育所・幼稚園等で行うシアター表現の活用方法を保育教材制作と発表から活用方法を学びます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	作品		-	10	20	-	30
	レポート		20	5	5	-	30
	発表		10	-	20	10	40
	合計(点)		30	15	45	10	100
評価の特記事項	ICT活用 作品などをGoogleフォームに提出する。						
アクティブ・ラーニングの活用	演習等を通じて、他学生の保育表現に触れることで、自分自身のシアターの工夫や仕上げ方、表現方法を養います。						
課題に対するフィードバック	発表時にコメントをします。						
テキスト							
参考書・教材	必要に応じて資料を配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	第1週・オリエンテーション ガイダンス（この授業で学ぶこと、心構え、進め方等） パネルシアター、スケッチブックシアター、発表について ・スケッチブックシアター制作計画 [課題(準備)]様々なアイデアを調べる。(1h)						
2	スケッチブックシアター制作 [課題(準備)]道具や材料を用意し制作環境を充実させる。(1h)						
3	スケッチブックシアター制作 [課題(準備)]道具や材料を用意し制作環境を充実させる。(1h)						
4	スケッチブックシアター制作 [課題(準備)]他者に伝わる発表方法の工夫をまとめ練習する。(1h)						
5	スケッチブックシアターの発表に向けての準備とまとめ [課題(準備)](1-2h)保育教材を完成させ、発表できるようにする(1-2h)						
6	スケッチブックシアター発表（作成したスケッチブックシアターの発表と自己評価） [課題(準備)]他者の発表から自分の良さと課題をまとめ、再構築する(1-2h)						
7	スケッチブックシアター発表 とまとめ（再構築したものの発表からスケッチブックシアターの活用についてまとめる） [課題(準備)]他者に伝わる表現方法の工夫をまとめ練習をする(1h)						
8	パネルシアター制作計画 [課題(準備)]インターネットや文献からパネルシアターについて調べる(1h)						
9	パネルシアター制作 [課題(準備)]制作に必要な教材を準備する(1h)						
10	パネルシアター制作 [課題(準備)]進捗に合わせて教材を準備する(1h)						
11	パネルシアター制作 [課題(準備)]進捗に合わせて教材を準備する(1h)						
12	パネルシアター発表準備とまとめ [課題(準備)]保育教材を完成させ、発表できるようにする(1-2h)						
13	パネルシアター発表（作成したパネルシアターの発表と自己評価） [課題(準備)]他者の発表から自分の良さと課題をまとめ、再構築する(1-2h)						
14	パネルシアター発表 とまとめ（再構築したものの発表からパネルシアターの活用についてまとめる） [課題(準備)]他者に伝わる表現方法の工夫をまとめ練習をする(1h)						
15	シアターの活用方法や表現方法についてまとめる [課題(準備)]表現方法や制作方法などさまざまなシアターについて調べ、まとめる(1h)						

時間外での学修	<p>「スケッチブックシアター」は、実習やボランティア活動等で繰り返し活用して技術を磨きましょう。 「パネルシアター」は、実習や実務研修に利用できるように、遊び方、留意点等を各自ノートに整理しておきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:各分野5時間程度計15時間です。】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>「パネルシアター」「スケッチブックシアター」では様々な保育技術表現を調べ、自身の表現方法に活用しましょう。質問等は、授業で伝達する各教員のオフィスアワーを活用ください。</p>

【1C3B221】幼児と健康		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	垣添 忠厚						
資格・制限等	幼児・保資必修						
資格等	保資必修、幼稚園二種						
実務家教員	垣添 特別支援学校教諭（18年）小学校（5年）						
授業方法	主に実技を中心とした演習となります。テーマによって、個人・グループ活動を行いながら、授業展開していきます。この授業で使用するテキストの著者である本学客員教授佐藤弘道先生を授業に迎え助言いただく機会を予定しています。						
到達目標	知識・理解	乳幼児期の健康（発達・生活習慣等）について理解することができる。					
	思考・判断・表現	理想の保育者像を常に描き、創造的な身体活動を行うことができる。					
	技能	感じたことや考えたことを自分なりに表現し、発表することができる。					
	関心・意欲・態度	豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	幼児期に必要な健康な心と体を育て、安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識や技能を身につけます。特に幼児の発達運動等において、幼児期の特徴や意義について学び、運動を実施することで健康に繋がる実践的な取り組みを中心とした演習となります。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート（毎回）		20	10	-	-	30
	自己評価（毎回）		-	10	10	10	30
	課題レポート		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	10	10	20
合計(点)		30	30	20	20	100	
評価の特記事項	毎回提出するレポートと自己評価の内容を基に評価します。発表は、授業内において設定した発表の内容を総合的に評価します。受講態度は、取り組み姿勢を主に評価します。						
ICT活用	タブレット機器を活用して、自己の運動動作の分析を行います。						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワークで学修した遊びの発展について考え、実践するようにします。						
課題に対するフィードバック	毎回のレポートの内容をまとめ、次時の授業で振り返りを行います。						
テキスト	『ひろみちお兄さんの運動遊び』佐藤弘道 世界文化社 ISBN:978-4-418-14717-5						
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、幼児体育、保育内容（健康）、資料は必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	乳幼児期の健康課題（乳幼児期の健康について学び、健康体操を実施する） 【課題（復習）】健康体操について調べ、乳幼児期の健康についてまとめる。（1h～2h）						
2	乳幼児期の発達の特徴（乳幼児期の身体的・生理的機能の発達について学び、発達段階に沿った運動を実施する） 【課題（復習）】発達段階に沿った運動の内容をまとめる。（1h～2h）						
3	乳幼児の安全管理（乳幼児の事故の状況を知り、安全管理と安全教育の基礎を学ぶ） 【課題（復習）】安全管理についてまとめる。（1h～2h）						
4	乳幼児期の応急処置（乳幼児の怪我の特徴と基本的な応急処置を学ぶ） 【課題（復習）】乳幼児期の怪我について調べ、応急処置の方法を身につける。（1h～2h）						
5	幼児期の運動発達（走る、投げる、跳ぶ運動の発達段階について学び、乳幼児期に必要な運動を考える） 【課題（復習）】運動発達について調べ、乳幼児期に必要な運動についてまとめる。（1h～2h）						
6	あそびから運動へ 模倣あそび（まねっこ、リズムに合わせて遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）						
7	あそびから運動へ からだあそび1（からだを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）						
8	あそびから運動へ からだあそび2（からだを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）						
9	あそびから運動へ 用具を使ったあそび1（ボールを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）						
10	あそびから運動へ 用具を使ったあそび2（新聞を使って遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）						
11	あそびから運動へ 用具を使ったあそび3（ロープ、フープを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）						
12	あそびから運動へ 運動遊具をつかったあそび（マットを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【課題（復習）】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）						
13	日常生活における運動（園生活の中での健康への配慮について考え、乳幼児の健康的な生活について考える） 【課題（復習）】園生活において健康に配慮された活動についてまとめる）						
14	子どもの病気の予防と睡眠（乳幼児の病気の特徴を知り、その予防について学ぶ。また乳幼児の睡眠の特徴を調べ、生活習慣の基礎となる睡眠の定着について考える） 【課題（復習）】病気の予防についてまとめる。また、正しい睡眠のとり方について実践し結果をまとめる。						
15	活動計画書の作成（授業内で学んだ運動遊びをアレンジし、2月の保育実習を想定した活動を立案する） 【課題（予習）】テキストや授業内で配布したプリントを参考に、計画したい運動遊びを考えておく。						
時間外での学修	普段の生活の中で、健康に関する情報を収集してください。また、子ども（特に乳幼児）の特徴的な身体活動を下記に参加した保育ボランティアの実践からまとめておいてください。発表に向けて準備や練習を十分に行ってください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						

受講学生への
メッセージ

自分自身が楽しく精一杯に活動ができるように、毎時間の活動に集中してください。
オフィスアワーは研究室（H203:H号館2F）で毎週金曜日12:15～12:45です。

【1C3B223】幼児と言葉		幼児教育学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	宮本 絢子					
資格・制限等	幼免・保資必修					
資格等	保資必修、幼稚園二種					
実務家教員	保育士10年					
授業方法	演習					
到達目標	知識・理解	言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解したり、幼児の発達における児童文化財の意義について理解する				
	思考・判断・表現	言葉の楽しさや美しさ、言葉の感覚を豊かにする実践、児童文化財について、基礎的な知識を身につける				
	技能	言葉あそびの種類を抱負にしたり、児童文化財（絵本、紙芝居）の具体的な作品に多く触れ、知識を豊かにすることができる				
	関心・意欲・態度	幼児の言葉に関心を持つ豊かな感性と教養を養い、常に研鑽に努めることができる				
授業内容	子どもたちは、遊びを中心とした活動や保育者との関わりをとおして自ら言葉を獲得していきます。保育者として、子どもが豊かな言葉を身につける大切さと、乳幼児期の言葉の発達について理解するとともに、子どもが自分の気持ちを言葉で表現できるよう、言葉遊びや児童文化財等の教材研究やグループワークや発表をとおして児童文化財の具体的な知識と活用技術を実践的に学びます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	受講参加態度	-	30	-	-	30
	発表の姿	-	-	30	-	30
	授業への姿勢	-	-	-	20	20
	レポート	20	-	-	-	20
合計(点)	20	30	30	20	100	
評価の特記事項	ICT活用					
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク、発表など					
課題に対するフィードバック	授業の最初に、前回のレポート（振り返りシート）をクラスで共有します。					
テキスト						
参考書・教材	「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」フレーベル館 「こどばと表現力を育む児童文化」萌文書林 その他授業中に紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業のオリエンテーション、進め方、評価の説明して授業の概要を知る。 [課題（準備）] 今日の資料を整理し、授業概要について理解を深める。（1h）					
2	言葉に関する現代社会の課題：情報化社会が子どもに及ぼす影響 [課題（準備）] 今日の資料を整理し、ポイントをまとめる。（1h）					
3	乳幼児の言葉の発達：子どもは言葉をどのように獲得するのかを学ぶ。 [課題（準備）] 絵本など必要なものを準備する。今日のキーワードをまとめる。（1h）					
4	「言葉に対する感覚」とは何か：言葉の楽しさを感じる。 [課題（準備）] 絵本など必要なものを準備する。活動内容を記録する。（1h）					
5	言葉に対する感覚を豊かにする実践とは？：言葉遊びのいろいろと保育への取り入れ方 [課題（準備）] 絵本など必要なものを準備する。ポイントをまとめ、理解を深める。（1h）					
6	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際：子どもと楽しむ「言葉遊び」を考えよう。 [課題（準備）] 絵本など必要なものを準備する。活動内容を記録する。（1h）					
7	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財とは何か？：子どもにとっての児童文化財の意義 [課題（準備）] 絵本を1つ選択し、その本を通して得られる子どもの経験について考察する。（1h）					
8	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（絵本）の実際：絵本の種類や歴史、保育への取り入れ方について学ぶ。 [課題（準備）] 絵本など必要なものを準備する。ポイントをまとめ、理解を深める。（1h）					
9	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（絵本）の実際：絵本の種類や保育への取り入れ方についてグループワークをする。 [課題（準備）] 絵本など必要なものを準備する。その絵本を選んだ理由をまとめる。（1h）					
10	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（絵本）を用いた活動の実践：グループごとに絵本の読み聞かせを会をする。 [課題（準備）] 絵本など必要なものを準備する。発表後、評価・反省等を記録する。（1h）					
11	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（紙芝居）の実際：紙芝居の種類や歴史、保育の取り入れ方について学ぶ。 [課題（準備）] 紙芝居など必要なものを準備する。ポイントをまとめ、理解を深める。（1h）					
12	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（紙芝居）の実際：紙芝居の種類や保育の取り入れ方についてグループワークをする。 [課題（準備）] 紙芝居など必要なものを準備する。その紙芝居を選んだ理由をまとめる。（1h）					
13	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（紙芝居）を用いた活動の実践：選んだ紙芝居をグループごとに発表する。 [課題（準備）] 紙芝居など必要なものを準備する。発表後、評価・反省等を記録する。（1h）					
14	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動の実践：子どもと一緒に絵本や紙芝居を読む活動を想定したお話会の計画を立てる。 [課題（準備）] 絵本など必要なものを準備する。指導案を書き、見直し、確認する。（1h）					
15	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動の実践：子どもと一緒に絵本や紙芝居を読む活動を想定したお話をグループごとに発表する。 [課題（準備）] 絵本など必要なものを準備する。発表後、評価・反省等を記録する。（1h）					

時間外での学修	日頃から、絵本や紙芝居を中心にした児童文化財に興味、関心をもって触れる努力をしましょう。 【この科目に求める望ましい授業時間外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	お膝で絵本を読んでもらっている子どもたちを観察してみましょう。子どもたちは、絵本の内容だけでなく「読んでもらうこと」も楽しんでいます。読み手との信頼関係を基盤にした幸せな時間を共有するという経験は、子どもたちの情緒の安定につながります。みなさんが、乳幼児期に読んでもらった思い出の絵本もぜひ紹介してくださいね。オフィスアワー：授業内に指示します

【1C3B224】音楽・基礎		幼児教育学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	光井 恵子・佐々 智美・春日 有貴江・小川 寿実子						
資格・制限等	特になし						
資格等	保資選択・選択必修、音療選択必修（幼教）						
実務家教員							
授業方法	二つのグループに分け、クラス授業とピアノの個人レッスン(ピアノ実技)を行います。グループ毎に教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください。						
到達目標	知識・理解	教育者、保育者になるために必要な音楽基礎知識を理解し説明することができる。					
	思考・判断・表現	音楽の楽しさを表現することができる。					
	技能	保育におけるピアノ演奏技術の基本を身につける。					
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	教育者、保育者になるために必要な音楽を基礎から学び、幅広い音楽性や表現する力を身に付けていきます。クラス授業では教育や保育に必要な音楽理論を中心に学び、個人レッスンでは各自の進度に応じてピアノの基礎技術を学びます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	確認テスト		20	-	-	-	20
	課題レポート		-	15	-	-	15
	実技試験		-	-	20	-	20
	ポートフォリオ		10	5	-	-	15
	受講態度		-	-	-	30	30
合計(点)		30	20	20	30	100	
評価の特記事項	クラス授業：確認テスト、課題レポート、受講態度で評価をします。ピアノ実技：実技試験、ポートフォリオ、受講態度で評価をします。受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況、提出物などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク						
課題に対するフィードバック	クラス授業：毎回課題の質疑については授業内でフィードバックしていきます。また確認テストやレポートは添削を行い、必要に応じてコメントをしていきます。個人レッスン：毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を示していきます。						
テキスト	『(A)：改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之 鈴木恵津子 教育芸術社ISBN:9784877888220 『(B)：教職課程のための 大学ピアノ教本 パイエルとツェルニーによる展開』大学教育音楽研究グループ 教育芸術社ISBN:9784905700333 (A)：全受講者購入して下さい。 (B)：『パイエル教則本』終了者、または終了程度の方は、各自のレベルに合わせた楽譜（各自所有の楽譜等）を持参しレッスンをを行います。そのため(B)の楽譜は購入する必要がありません。						
参考書・教材	『ブルクミュラー25の練習曲』『ソナチネアルバム1』等 必要な資料は授業で配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	クラス授業：楽譜の仕組みについて(1) 譜表、音名 [課題・準備] 譜表、音名を覚え、ピアノ練習に活用する 個人レッスン：クラス分けとミーティング 各自のレベルに合わせたレッスン(選曲と今後の方針) [課題・準備] 次の授業でのレッスン曲を練習する(1~2h)						
2	クラス授業：楽譜の仕組みについて(2) 音符、休符、拍子、小節 [課題・準備] 音符や休符の種類や名前を覚え、ピアノ練習に活用する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						
3	クラス授業：音楽の仕組みについて(1) [音程] 単音程 2・3度音程 [課題・準備] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						
4	クラス授業：音楽の仕組みについて(2) [音程] 単音程 6・7度音程 [課題・準備] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						
5	クラス授業：音楽の仕組みについて(3) [音程] 単音程 1・4・5・8度音程 [課題・準備] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						
6	クラス授業：音楽の仕組みについて(4) [音程] 派生音を含む音程と複音程音楽の仕組みについて グループワークをして修得した内容を確認しよう [課題・準備] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
7	<p>クラス授業：確認テスト [課題・準備] 学習した内容を復習する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>
8	<p>クラス授業：音楽の仕組みについて（5）音階 [課題・準備] 学習した内容を復習し、各調の音階を鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>
9	<p>クラス授業：音楽の仕組みについて（6）和音の種類 [課題・準備] 学習した内容を復習し、和音を鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>
10	<p>クラス授業：音楽の仕組みについて（7）和音記号 [課題・準備] 学習した内容を復習し、和音を鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>
11	<p>クラス授業：和音とコードの関係 [課題・準備] 学習した内容を復習し、コードを鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>
12	<p>クラス授業：基本的なコード [課題・準備] 学習した内容を復習し、コードを鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>
13	<p>クラス授業：コードネームの見分け方 [課題・準備] 学習した内容を復習し、コードを鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせた個人レッスン（試験に向けて課題曲の練習） [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習（1～2h）</p>
14	<p>クラス授業：確認テスト [課題・準備] 学習した内容を復習する ピアノ実技：各自のレベルに合わせたレッスン（試験に向けて課題曲の練習） [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習（1～2h）</p>
15	<p>クラス授業：前期に学修した内容の総復習 [課題・準備] 総合的に復習し、前期全体のまとめをする 個人レッスン：実技試験 [課題・準備] 試験曲の復習（1～2h）</p>
時間外での学修	<p>教育者、保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身につけていきますので、ピアノの練習は毎日行い、積極的に予習・復習に取り組んでください。質問等があれば、研究室（A307：A号館3F）へきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>音楽をしっかりと学び、その技術・技能を身につけることは、保育者として指導力に大きく関わります。体調を常に整えて、遅刻、欠席しないように心がけましょう。爪はしっかり切っておいてください。オフィスアワーは研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日の16：10から16：40です。または各レッスン室で授業終了後に行います。</p>

【1C3S225】幼児と音楽表現		幼児教育学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	光井 恵子・小川 寿実子・春日 有貴江・日比 裕美子					
資格・制限等	幼免・保資必修					
資格等	保資必修、幼稚園二種、音療選択必修（幼教）					
実務家教員						
授業方法	クラス授業では、領域「表現」の意義や内容を考え、保育現場での様々な音楽での表現活動の方法を学びながら自身の感性を高めていきます。また表現活動を展開させるための知識技能を個人レッスンで身に付けていきます。					
到達目標	知識・理解	幼児の表現の姿やその発達を理解することができる。				
	思考・判断・表現	様々な表現（身体・音楽）の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。				
	技能	様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。				
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。				
授業内容	領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境構成について実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付けます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	ポートフォリオ	-	20	-	20	40
	表現活動の発表	-	20	20	-	40
	レポート	20	-	-	-	20
	合計(点)	20	40	20	20	100
評価の特記事項	学びの過程はポートフォリオ等(40%)、学びの成果は表現活動の発表(40%)とレポート(20%)で評価していきます。					
ICT活用	iPadのアプリを使用した活動をしていきます。					
アクティブ・ラーニングの活用	グループによる活動や発表を取り入れます。					
課題に対するフィードバック	クラス授業：課題の質疑については授業内でフィードバックしていきます。 個人レッスン：授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を提示していきます。					
テキスト	『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之、鈴木恵津子 教育芸術社 ISBN:9784877888220 1年前期(音楽・基礎)の授業で使用した教科書を引き続き使用していきます。					
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	領域「表現」のねらい及び内容の理解と知識技能の修得 ・幼児期の遊びや生活での領域「表現」における「身体・音楽表現」の位置付けについて理解するために、自分自身の表現を振り返りとともに、表現の源を考える。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習(1~2h)					
2	「表現の源に出会う」の体験と知識技能の修得 ・表現の源に出会い、「感じる・気付く・考える」体験を通して、表現の生成過程を分析的に捉え、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
3	「自然との対話」の体験と知識技能の修得 ・身近な自然やその素材の特性に触れ、感じる、みる、聴く、楽しむことを通してイメージを豊かにする。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
4	「素材との対話」の体験と知識技能の修得 ・身近な素材に身体の内側を通して触れ、その特性を生かして身体・音楽表現の様々な表現体験をし、幼児の表現活動の展開する可能性を探る。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
5	「生活との対話」の体験と知識技能の修得 ・多様性に着目し、身近な遊びや生活に心が動いたことをもとに、香りや味わいなどのイメージを持ちながら身体・音楽などで表現する。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
6	「他者との対話」の体験と知識技能の修得 ・表現は対象への呼びかけと応答でコミュニケーションとして成立することを体験し、表現の生成する過程を分析的に捉え、楽しさを生み出す要因についても分析する。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
7	<p>「環境との対話」の体験と知識技能の修得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の内感を通して環境と対話し、感受性（気付き・思考・イメージ）を豊かにし、環境と表現の関わりについて理解する。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 <p>[課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
8	<p>「幼児の表現」の理解と知識技能の修得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の表現行為とは何かを考えるため、幼児の表現活動を鑑賞する。幼児の素朴な様々な表現を見出し、受け止め、共感しながらその行為を分析する。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 <p>[課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
9	<p>「文化との対話」の体験と知識技能の修得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な表現方法を知るために、文化的な表現活動の作品を鑑賞し、幼児の表現活動を支えるための感性を豊かにする。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 <p>[課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
10	<p>音楽遊びの視点から「学び」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤楽器を用いて音の響きやハーモニーの美しさを体験しながら、様々な鍵盤楽器の奏法を身に付ける。 ・表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 <p>[課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
11	<p>音楽遊びの視点から「学び」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤楽器を用いて音の響きやハーモニーの美しさを体験しながら、実践的な展開例を考える。 ・表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考える。 <p>[課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
12	<p>音楽遊びの視点から「学び」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な楽器を用いて幼児の発達に合わせたリズム遊びを考える。また様々な楽器の奏法を身に付ける。 ・表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考える。 <p>[課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
13	<p>音楽遊びの視点から「学び」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な楽器を用いて幼児の発達に合わせたリズム遊びやアンサンブルの展開を考える。 ・表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考える。 <p>[課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
14	<p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した具体的な表現活動をグループで考える。 ・表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考え、発表するための準備をする。 <p>[課題(予習・復習)]学修した内容の確認、発表に向けての練習(1~2h)</p>
15	<p>ICTの活用(発表)とまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した表現活動を発表し、学修のまとめをする。 ・表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考え、発表に向けて仕上げていく <p>[課題(予習・復習)]学修した内容の確認、発表に向けての練習(1~2h)</p>
時間外での学修	<p>保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきますので、毎日練習を行い、積極的に予習、復習に取り組み、弾き歌いできるレパートリー曲を増やしてください。 質問等があれば、研究室(A307:A号館3F)へきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>表現活動するにはまずは自分自身が感性を豊かにすることです。常に五感を意識して生活をしましょう。また、積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。 オフィスアワーは研究室(A307:A号館3F)で毎週木曜日16:10~16:40です。または各レッスン室で授業終了後に行います。</p>

【1C3B230】造形・基礎		幼児教育学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	立崎 博則						
資格・制限等	特になし						
資格等	保資選択・選択必修						
実務家教員							
授業方法	制作活動の体験と、課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。						
到達目標	知識・理解	多様な創作活動を体験し、幼児の造形あそびや表現の位置付けについて説明できる。					
	思考・判断・表現	グループでの制作を通し、他者の考えや表現を受け止め共感し、協力し表現する重要性を説明できる。					
	技能	作ることを積極的に楽しみ、基礎的な知識・技能を用い表現ができる。					
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	造形あそびや造形表現について、制作活動を通して基礎的な知識と技能を学ぶ。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	作品		-	20	10	-	30
	レポート		30	-	-	-	30
	ポートフォリオ		10	10	10	10	40
	合計(点)		40	30	20	10	100
評価の特記事項	授業で説明します。						
ICT活用	Googleフォームやポートフォリオサイトを使い、作品などのフィードバックを行います。						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク						
課題に対するフィードバック	作品鑑賞をしコメントする時間をもちます。授業内でレポートなどのふりかえりを行います。						
テキスト	必要な資料は授業で配布します。						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション、授業説明、表現のはじまり [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録し自分の「好き」を増やしプリント課題に取り組む。(1~2h)						
2	造形表現の基礎 色について1 色相環を作ろう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)						
3	造形表現の基礎 色について2 色相環を使って表現しよう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1~2h)						
4	造形表現の基礎 形について1 形のリズム、組み合わせ [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)						
5	造形表現の基礎 形について2 形を紙に描写しよう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)						
6	見せるを考える 視覚教材について1 看板を作ろう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)						
7	見せるを考える 視覚教材について2 看板を作ろう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、自分の表現の参考にすることについて課題に取り組む。(1h)						
8	見せるを考える 視覚教材について3 看板を作ろう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、グループ制作の参考にすることについて課題に取り組む。(1h)						
9	見せるを考える 視覚教材について4 看板を作ろう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、グループ制作の参考にすることについて課題に取り組む。(1h)						
10	造形表現実践 季節や行事の表現遊び1 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)						
11	造形表現実践 季節や行事の表現遊び2 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	造形表現実践 季節や行事の表現遊び3 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)
13	造形表現実践 季節や行事の表現遊び4 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)
14	造形表現実践 季節や行事の表現遊び5 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用した作品展示について考える。(1h)
15	自分の制作を振り返る [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、自分の制作について課題を行う。(1h)
時間外での学修	日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。 定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」(豊かな感性)と一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」(創造力)を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室(H201)にて金曜日昼休みです。

【1C3S231】幼児と造形表現		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	立崎 博則						
資格・制限等	幼免・保資必修						
資格等	保資必修、幼稚園二種						
実務家教員							
授業方法	制作活動や発表の体験と、課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。						
到達目標	知識・理解	多様な創作活動を体験し、幼児の造形あそびや表現活動について自分の考えを説明することができる。					
	思考・判断・表現	発表や鑑賞を通して、共感や感動の表現に対する重要性を説明できる。					
	技能	作ることを積極的に楽しみ、様々な道具や素材を使い表現ができる。					
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	造形あそびや造形表現について、制作活動を通して基礎的な知識と技能を使い、グループワークや魅せる(発表する・展示する)ことについて学ぶ。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	作品		-	20	10	-	30
	レポート		20	10	-	-	30
	ポートフォリオ		10	10	10	10	40
	合計(点)		30	40	20	10	100
評価の特記事項	授業で説明します。						
ICT活用	Googleフォームやポートフォリオサイトを使い、作品などのフィードバックを行います。						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク						
課題に対するフィードバック	作品鑑賞をしコメントする時間をもちます。授業内でレポートなどのふりかえりを行います。						
テキスト	必要な資料は授業で配布します。						
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 授業説明 紙を使った素材あそび 制作概要の説明 [課題(準備)]実習時の自己紹介についてアイデアをまとめる。(1h)						
2	紙を使った表現 平面 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)						
3	紙を使った表現 立体 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)						
4	子ども達に見せるを考える 1 自己紹介のための作品制作 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)						
5	子ども達に見せるを考える 2 自己紹介のための作品制作 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)						
6	子ども達に見せるを考える 3 自己紹介のための作品制作 [課題(準備)]実習時の自己紹介の発表について伝える工夫をまとめる。(1h)						
7	子ども達に見せるを考える 4 自己紹介のための作品制作 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						
8	造形表現の基礎 構図について1 壁面制作 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						
9	造形表現の基礎 構図について2 壁面制作 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						
10	子ども達と作るを考える1 季節や行事の造形活動 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						
11	子ども達と作るを考える2 季節や行事の造形活動 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						
12	子ども達と作るを考える3 季節や行事の造形活動 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	子ども達と作るを考える4 季節や行事の造形活動 【課題(準備)】グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)
14	子ども達と作るを考える5 季節や行事の造形活動 【課題(準備)】グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)
15	子ども達と作るを考える6 季節や行事の造形活動 自分の制作や活動の振り返り 【課題(準備)】グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに伝えるための工夫について日々の生活の中で考えるようにしましょう。また、グループでの表現や制作について授業外でもコミュニケーションをとることも意識するようにしてください。 ・定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」(豊かな感性)と一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」(創造力)を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室(H201)にて金曜日昼休みです。

【1C4A404】保育実習 a		幼児教育学科		1年後期		
		2単位	選択	実習	90時間	
教員	名和 孝浩・大橋 淳子・宮本 絢子					
資格・制限等	保資必修 / GPA並びに既修得科目による制限有り					
資格等	保資必修					
実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年					
授業方法	保育実習園でのオリエンテーション及び実習園での保育実習を90時間行います。なお、保育実習を履修する際、本学または、実習園で決められた事項を遵守できない場合は、実習を中止することがあります。					
到達目標	知識・理解	保育所の一日の流れを理解すると共に、実習施設や保育内容について学ぶ。				
	思考・判断・表現	子どもと共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努め、その記録を日誌にまとめる。				
	技能	保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。				
	関心・意欲・態度	積極的に保育に参加し、保育士の役割について学ぶ。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。					
観点別評価	評価の方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実習日誌の評価	-	25	-	-	25
	実習園の評価	25	-	25	25	75
	合計(点)	25	25	25	25	100
評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。					
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	日々、自分自身の実習のねらいに沿った保育実践を行い、保育記録を取ることで省察し、指導担当保育者との反省会等を踏まえて、次回の実践の改善を図る。PDCAサイクルに基づいた主体的な学修を行う。					
課題に対するフィードバック	実習園からの評価に基づいた実習課題のフィードバックを行う。					
テキスト	『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z 実践できる！ 保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキスト』【監修】名須川 知子【編著】田中 卓也・松村 齋・小島 千恵子・岡野 聡子・中澤 幸子 萌文書林(1,980円) ISBN: 978-4-89347-360-8 なし					
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領』 フレーベル館					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1～15	<p>第1回 実習園での オリエンテーション</p> <p>第2回 - 第8回 保育所での保育実習 (45時間)</p> <p>(1) 観察を中心とした実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要を知る。 ・園児と共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努める。 ・保育所における保育の資料を収集し、記録をとる。 ・安全に対する配慮、環境整備、清掃の仕方を知る。 <p>第9回 - 第15回 保育所で保育実習 (45時間)</p> <p>(2) 補助的な参加・主体的な参加及び部分実習を中心とした実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導職員の補助的役割で保育に参加し、一日の流れを理解する。 ・保育計画・指導計画を理解する。 ・保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。 ・さまざまな幼児とコミュニケーションをとり、一人ひとりの発達への理解を深める。 ・園の指導を受けながら部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。 ・園行事に参加し、行事のあり方について考える。 ・まとめを行い、今後の課題を見つける。 					
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の職員の指導を仰ぎましょう。 					
受講学生へのメッセージ	実習は体力がいります。日頃から健康に留意し、自己管理を怠りなく、十分体調を整えて意欲的に実習に取り組みましょう。質問等は各担当教員のオフィスアワーを活用してください。					

【1C4S206】実習指導 a		幼児教育学科		1年通年			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	名和 孝浩・大橋 淳子・宮本 絢子						
資格・制限等	保資必修						
資格等	保資必修						
実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年						
授業方法	講義と演習						
到達目標	知識・理解	保育所の一日の流れを理解すると共に、実習施設や保育内容について学ぶ。					
	思考・判断・表現	子どもと共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努め、その記録を日誌にまとめる。					
	技能	保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。					
	関心・意欲・態度	積極的に保育に参加し、保育士の役割について学ぶ。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	保育士資格取得を目指す学生として、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習に必要な基本的知識や態度を学び、課題を持って実習に取り組めるよう学びます。実習日誌、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習が充実するよう実習に関連する科目での学びも取り入れて知識や技能を修得します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		20	20	-	-	40
	実技課題		-	-	30	-	30
	提出物・受講態度		-	-	-	30	30
	合計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項	ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	演習等を通じて、互いの意見や保育実践方法に触れることで、自分自身の保育理解や実践方法、保育観を養う。						

課題に対するフィードバック	実習に関する面談や事務手続き・実習記録に関する添削や個別指導を適宜行う。実習事後指導により実習での学修内容をフィードバックする。
テキスト	『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z 実践できる！ 保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキスト』【監修】名須川 知子【編著】田中 卓也・松村 薫・小島 千恵子・岡野 聡子・中澤 幸子 萌文書林(1,980円) ISBN: 978-4-89347-360-8
参考書・教材	厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション ・実習とは何か ・保育実習までの準備と学び [課題(予習)]保育実習園について調べる。(1h)
2	実習園を決める ・保育実習の意義について学ぶ ・保育ボランティアに向けての準備 [課題(予習)]保育実習園を決め、連絡をとり、内諾を受ける。(1~2h)
3	保育ボランティアに行こう ・保育ボランティアの心得について学ぶ ・保育ボランティアでの視点について学ぶ ・個人情報の保護に関して学ぶ [課題(復習)]保育ボランティアの依頼と事前オリエンテーションに向かう。(2~3h)
4	保育実習に向けて自身のめあてを決めよう ・保育ボランティアを振り返り、自身の課題に気づき、目標を立て見通しを持つ ・保育所の機能と目的についてまとめる [課題(復習)]保育ボランティアの振り返りをまとめる。(1~2h)
5	保育所保育指針から学ぶ(1) ・認定子ども園との相違について知る ・「総則」「子どもの発達」「保育の内容」について学ぶ [課題(予習)]保育所保育指針「総則」「子どもの発達」「保育の内容」を事前の読んでおく。(1~2h)
6	保育所保育指針から学ぶ(2) ・「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」について学ぶ [課題(予習)]保育所保育指針「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」を事前に読んでおく。(1~2h)
7	保育の実際(1) ・実習日誌の書き方を学ぶ。デイリープログラムを、日誌に書く [課題(復習)]デイリープログラムを完成させる。(1h)
8	保育の実際(2) ・自己紹介について考え、必要な準備をする [課題(予習)]必要な準備物を完成させる。(1~2h)
9	保育の実際(3) 部分実習の考え方について学ぶ ・指導案の立て方を学ぶ [課題(復習)]部分実習の指導案を考えておく。(1~2h)
10	保育実技の確かめ ・保育園をイメージして手遊びや絵本の読み聞かせなど模擬的な実践をする ・実習日誌の正しい書き方について確認をする [課題(復習)]手遊びの内容を考え、練習をしておく。(1~2h)
11	実習生としての心構え(1) ・園でのオリエンテーションを受ける時の視点を知る ・実習生としての実習態度、服装・身だしなみの確認をする。 [課題(予習)]事前オリエンテーションを受けるために必要な準備をする。(1~2h)
12	実習生としての心構え(2) ・実習のめあての確認 ・事務文書(身上書)の作成 [課題(復習)]身上書を完成させる。(1~2h)
13	実習生としての心構え(3) ・事務文書(訪問担当者への地図)の作成や取り扱いについて確認をする ・個人情報の保護について確認をする [課題(予習)]実習日誌や必要な書類の整理をしておく。(1~2h)
14	まとめ ・実習の目的と内容の確認 ・評価について ・事務連絡 [課題(復習)]実習初日の持ち物の確認や自己紹介の練習をしておく。(2h)

内容	
実施回	授業内容・目標
15	<p>実習を終えて反省 ・実習を振り返り、めあての達成など自己評価をする</p> <p>・実習園からのアドバイスなどを元に、今後の実習に向けて課題を明確に持つ</p> <p>【課題(復習)】実習振り返り票の記入をする。(1h)</p>
時間外での学修	<p>実習に向けて、他の科目での学修も生かしながら準備を進めていきましょう。時間外の学修については、その都度指示をしますから、確実に課題を進めていきましょう。</p> <p>【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>実習には体力が必要です。日頃から体調管理に努めると共に、心身の健康について日頃から意識しましょう。質問等は各教員のオフィスアワーを活用してください。</p>

【1C4F212】ボランティア実践		幼児教育学科		1～3年通年			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	光井 恵子						
資格・制限等	特になし						
資格等							
実務家教員							
授業方法	活動参加活動及び振り返りの実施						
到達目標	知識・理解	社会の課題に気付き、適切に判断・行動することができる。					
	思考・判断・表現	学びの集積を自覚し、統合し活用することができる。					
	技能	さまざまな価値観に対応できる柔軟性を身につける。					
	関心・意欲・態度	社会に貢献する使命感と責任感をもって、積極的に行動することができる。					
授業内容	地域及び学内で行われる社会活動やボランティア活動に参加をし振り返りを行う。主体的・対話的で深い学びを促進する状態での学修を積極的に行い、ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援等も必要に応じて実施する。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	提出物(ポートフォリオ)		10	10	10	40	70
	レポート		10	10	10	-	30
	合計(点)		20	20	20	40	100
評価の特記事項	ポートフォリオの提出とレポートで評価する。						
ICT活用	Google Classroomを活用し、社会活動に情報等を配信していく。						
アクティブ・ラーニングの活用	活動への準備や振り返りの中において、グループワークやプレゼンテーションを取り入れていく。						
課題に対するフィードバック	活動後のレポート及び振り返りにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行う。						
テキスト	『なし』						
参考書・教材	必要に応じて配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	3年間において、下記のいずれかの社会活動及びボランティア活動に30h以上参加をする。かつ、その活動におけるポートフォリオの提出と総合的にまとめたレポートの提出で単位を認定する。 (1)地域や学内で行われる行事や活動への参加 (2)県や市町村、各種団体が主催する行事へのボランティア参加 (3)保育園等をはじめとする施設等での保育技術の発表						
時間外での学修	ボランティア活動の種類によって、事前準備・学修が必要になってきます。詳細については、担当教員より連絡があります。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	社会活動に積極的に参加することによって、大学で学ぶ知識や技術を統合し、主体的・協同的な姿を備えた保育者になることを目的としています。活動によって担当者が異なりますので、オフィスアワーの時間帯については、アカデミックアドバイザーに尋ねてください。						

【106F2011】ウインドアンサンブル		幼児教育学科		1年前期			
		2単位	選択必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・野々垣 行恵						
資格・制限等	特になし						
資格等	音療選択必修(幼教)						
実務家教員	鈴木:吹奏楽指導者(含 高等学校教員)37年						
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。最後に、筆記試験と実技試験を実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、授業での発信・発言に応えます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ&ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景等を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。					
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での基本的な表現力を身につける。					
	技能	楽譜通り正確に演奏できる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を、積極的に学生同士で円滑に進めることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ&ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の集中練習を実施する予定です。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	10	50	-	60
	筆記試験・受講態度		10	10	-	20	40
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は、受講姿勢や出席状況を含めて総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Googleフォーム、学生ポータル)						
アクティブラーニングの活用	セクション演習、パート演習などのグループワーク、グループディスカッション						
課題に対するフィードバック	毎回の授業後、個々の課題を整理し、解決します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。						
テキスト	その都度配布						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲配布、全体で譜読み、合奏。パート内集団活動。パート別演習の打ち合わせ、配布した音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲をパートで譜読み。[課題(準備・予習)]シラバスの熟読、音楽鑑賞用楽曲の譜読み、各自、楽器、衣装・譜面台・ファイル等配布物の整理。(2h~4h)						
2	音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲配布・全体で譜読み、合奏。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。[課題(復習・予習)]音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
3	音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲配布・全体で譜読み、合奏。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。[課題(復習・予習)]音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
4	音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲配布・全体で譜読み、合奏。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。[課題(復習・予習)]音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
5	音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲配布・全体で譜読み、合奏。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。日時を変更して実施。[課題(復習・予習)]音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
6	音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲仕上げ合奏。パート別、セクション別演習。[課題(復習・予習)]音楽鑑賞用楽曲のまとめ(テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
7	音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲仕上げ合奏。パート別、セクション別演習。[課題(復習・予習)]音楽鑑賞用楽曲のまとめ(テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
8	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。[課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
9	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
10	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
11	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
12	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
13	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
14	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
15	前期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験。 [課題(復習)] 試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。(2h~4h)
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前によく練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を積極的に行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～60時間】
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。合奏メンバーとしてのマナーを身につけましょう。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【106F2012】ウインドアンサンブル		幼児教育学科		1年後期			
		2単位	選択必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・野々垣 行恵						
資格・制限等	特になし						
資格等	音療選択必修(幼教)						
実務家教員	鈴木:吹奏楽指導者(含 高等学校教員)37年						
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。最後に、筆記試験と実技試験を実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、授業内での発信・発言に応えます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ&ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景等を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。					
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での基本的な表現力を身につける。					
	技能	楽譜通り正確に演奏できる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を、積極的に学生同士で円滑に進めることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ&ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の集中練習を実施する予定です。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	10	50	-	60
	筆記試験・受講態度		10	10	-	20	40
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は、受講姿勢や出席状況を含めて総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Googleフォーム、学生ポータル)						
アクティブラーニングの活用	セクション演習、パート演習などのグループワーク、グループディスカッション						
課題に対するフィードバック	毎回の授業後、個々の課題を整理し、解決します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます						
テキスト	その都度配布						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。パート内集団活動。パート別演習の打ち合わせ、配布した定期演奏会用楽曲をパートで譜読み。 [課題(準備・予習)]シラバスの熟読。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
2	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
3	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
4	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
5	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
6	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
7	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
8	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化に留意して)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
9	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化に留意して)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
10	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化に留意して)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。仕上げ。 【課題（復習・予習）】定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に旋律部分、伴奏部分の音楽の違いに注意しながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
12	定期演奏会用楽曲合奏。パート別演習、セクション別演習。仕上げ。 【課題（復習・予習）】定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
13	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。仕上げ。 【課題（復習・予習）】定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に時代背景や特徴的な表現記号を反映させながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
14	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。仕上げ。 【課題（復習・予習）】定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に自分なりの音楽を考えながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
15	後期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験。 【課題（復習）】試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を積極的に行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～60時間】
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心がけて下さい。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。合奏メンバーとしてのマナーを身につけましょう。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。